

おおほど 2 ひらはま
大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡

—市道閉伊崎線道路改良工事関係発掘調査報告書—

2004. 3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

岩手県沿岸部のほぼ中央に位置する宮古市は、北上山系を水源とし太平洋へと注ぎ込まれる閉伊川や大きく入り込んだ宮古湾、そして本州最東端に位置する重茂半島など豊かな自然環境に恵まれています。特に重茂半島は、月山・十二神山などの山麓が広がり、太平洋に面した東側では複雑に入り組んだ海岸線が連続しており、すばらしい景観をみせています。

重茂半島ではこのような自然環境に生まれ、歴史的にも古くから人々の生活の場となっていたことが発掘調査の成果により分かってきています。重茂・千鶏地区では縄文・弥生時代の遺跡が調査され、土器や石器が多数出土し、赤前地区では奈良・平安時代の遺跡が調査され、竪穴住居跡や鍛冶炉跡が見つかっています。

今回の発掘調査は、重茂半島の北側先端部に位置する閉伊崎地区の市道改良工事に伴うもので、5箇所で行った調査を実施しました。大程Ⅱ遺跡からは鉄滓を廃棄した土坑が検出され、周辺に製鉄関連遺跡の存在を示唆するものです。また、平浜遺跡からは縄文時代中期の遺物包含層が検出され、縄文人たちが使った土器の破片が多数出土しました。

これらの資料は、宮古市の長い歴史におけるほんの一面でしかありませんが、歴史を理解する上で欠かせないものであり、今後大いに活用されることを願っております。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

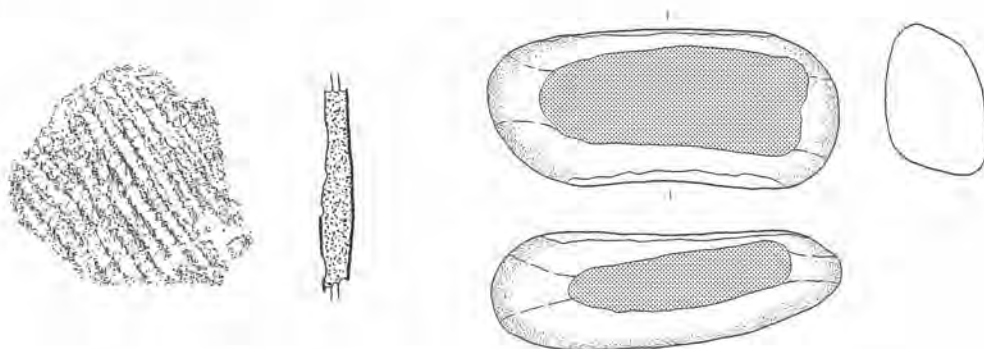
宮古市教育委員会
教育長 中 屋 定 基

例 言

- 1 本報告書は、「市道閉伊崎線道路改良工事」に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書には、平成11年度から平成14年度に実施した岩手県宮古市重茂第29地割字戸ノ崎地内に所在する大程Ⅱ遺跡、平浜遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査の結果を収録した。
- 3 調査主体は宮古市教育委員会(教育長 中屋定基)である。平成11年度の工事立会は竹下が担当し、発掘調査は平成12・13年度が安原、平成14年度は長谷川が担当した。本報告書の作成は長谷川が担当し、その他担当職員がこれを補佐した。
- 4 調査座標は任意とし、レベル数値は標高値を表す。図中の方位は真北を示す。
- 5 本報告書の遺物実測図の用例は次の通りである。

(1) 縮尺率 原則として縄文・弥生土器、大型の石器の縮尺は1/3、小型の石器の縮尺は2/3
錢貨の縮尺は1/1とし、各図版のスケール上に縮尺率を示した。

(2) トーン



胎土に繊維が含まれる土器

磨面のある石器

- 6 土色及び土質の観察は「新版標準土色帖 2001年度版」(小山正忠・竹原秀雄編著)を基準として表示した。
- 7 本文中もしくは挿図中で使用した略号は次の通りである。
SD： 溝跡 SK： 土坑 S： 礫
- 8 本書に収録した遺跡の調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

第1章 調査に至る経緯と遺跡の環境	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 地理的環境	3
第3節 歴史的環境	4
第2章 遺構と遺物	7
第1節 A地点	7
第2節 B地点	7
第3節 C地点	11
第4節 D地点（大程Ⅱ遺跡）	15
第5節 E地点（平浜遺跡）	22
第3章 まとめ	30
報告書抄録	32

挿図目次

第1図	市道閉伊崎線発掘調査地点	2	第13図	D地点(大程Ⅱ遺跡) 周辺地形図	15
第2図	重茂半島地形分類図	3	第14図	D地点(大程Ⅱ遺跡) トレンチ全体図	15
第3図	重茂半島の遺跡分布	5	第15図	D地点(大程Ⅱ遺跡) トレンチ断面図(1)	16
第4図	周辺の遺跡分布	6	第16図	D地点(大程Ⅱ遺跡) トレンチ断面図(2)	17
第5図	A地点 周辺地形図	7	第17図	D地点(大程Ⅱ遺跡) 1号土坑	18
第6図	B地点 周辺地形図	8	第18図	D地点(大程Ⅱ遺跡) 遺構外出土遺物	19
第7図	B地点 トレンチ全体図	8	第19図	E地点(平浜遺跡) 周辺地形図	22
第8図	B地点 トレンチ断面図	9	第20図	E地点(平浜遺跡) トレンチ全体図	22
第9図	C地点 周辺地形図	11	第21図	E地点(平浜遺跡) トレンチ断面図(1)	23
第10図	C地点 トレンチ全体図	11	第22図	E地点(平浜遺跡) トレンチ断面図(2)	24
第11図	C地点 トレンチ断面図	12	第23図	E地点(平浜遺跡) 出土遺物(1)	25
第12図	C地点 出土遺物	12	第24図	E地点(平浜遺跡) 出土遺物(2)	26

写真目次

1	A地点 調査前状況(南→)	7	14	D地点(大程Ⅱ遺跡) トレンチ掘り下げ状況(東→)	20
2	A地点 堆積状況	7	15	1号土坑遺物出土状況(南→)	21
3	B地点 調査前状況(南→)	10	16	1号土坑完掘状況(南→)	21
4	B地点 トレンチ掘り下げ状況(西→)	10	17	D地点(大程Ⅱ遺跡) 出土遺物	21
5	B地点 堆積状況(西→)	10	18	E地点(平浜遺跡) 調査前状況(北→)	27
6	C地点 調査前状況(西→)	13	19	E地点(平浜遺跡) 包含層検出状況(北→)	27
7	C地点 調査前状況(西→)	13	20	E地点(平浜遺跡) トレンチ堆積状況(西→)	27
8	C地点 トレンチ掘り下げ状況(西→)	13	21	E地点(平浜遺跡) 1号溝跡検出状況(北→)	28
9	C地点 堆積状況(南→)	14	22	E地点(平浜遺跡) 1号溝跡セクション(南→)	28
10	C地点 トレンチ掘り下げ状況(東→)	14	23	E地点(平浜遺跡) トレンチ掘り下げ状況(北→)	28
11	C地点 出土遺物	14	24	E地点(平浜遺跡) 出土遺物(1)	29
12	D地点(大程Ⅱ遺跡) 調査前状況(西→)	20	25	E地点(平浜遺跡) 出土遺物(2)	29
13	D地点(大程Ⅱ遺跡) トレンチ堆積状況(北→)	20			

第1章 調査に至る経緯と遺跡の環境

第1節 調査に至る経緯

(1) 調査に至る経緯

本発掘調査は、市道閉伊崎線の道路改良工事に伴い実施されたものである。平成10年に宮古市建設課より埋蔵文化財についての照会があり、それを受けて社会教育課は10月30日に現地を確認した。さらに、平成11年11月5日に再度現地踏査を行い、地形や周辺の環境などから道路予定地内の5箇所(A～E地点)において試掘調査が必要である旨回答をした。A地点においては平成11年に工事立会を行い、B～E地点の調査は平成12年から平成14年まで実施している。

(2) 調査概要

市道閉伊崎線道路改良工事に伴う試掘調査は以下の5箇所において行った。

① A地点

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸ノ崎地内
平成11年工事立会

② B地点

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸ノ崎地内
調査期間 (調査) 平成12年4月10日～平成12年5月25日
(整理) 平成12年5月26日～平成12年6月12日
調査面積 270m²

③ C地点

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸ノ崎地内
調査期間 (調査) 平成13年6月22日～平成13年7月23日
(整理) 平成13年8月20日～平成13年8月23日
調査面積 390m²

④ D地点(大程Ⅱ遺跡 LG35-0201)

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸ノ崎地内
調査期間 (調査) 平成14年4月5日～平成14年5月13日
(整理) 平成15年1月6日～平成15年2月28日
調査面積 110m²

⑤ E地点(平浜遺跡 LG25-2159)

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸ノ崎地内
調査期間 (調査) 平成14年5月13日～平成14年6月4日
(整理) 平成15年1月6日～平成15年2月28日
調査面積 80m²

(3) 調査体制 (平成11年～15年)

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋 定基
調査総括	沼崎 幸夫	宮古市教育委員会生涯学習課長	(～平成12年)
	伊藤 賢一	生涯学習課長	(平成13年～)
事務担当	瀬川 康平	生涯学習課長補佐兼文化係長	(～平成13年)
	小本 完	生涯学習課長補佐兼文化係長	(平成14年)
	佐藤慎一郎	生涯学習課長補佐兼文化係長	(平成15年～)
	宇都宮禎子	生涯学習課社会教育係長	(～平成12年)
	箱石 憲市	生涯学習課社会教育係長	(平成13年～)
調査員	竹下 将男	生涯学習課文化財調査員主査	
	高橋憲太郎	生涯学習課主任文化財調査員	
	鎌田 祐二	生涯学習課主任文化財調査員	
	加納 由美	生涯学習課主任文化財調査員	
	安原 誠	生涯学習課文化財調査員	(平成12・13年調査担当)
	長谷川 真	生涯学習課文化財調査員	(平成14年調査、報告書担当)
	阿部 豊	生涯学習課埋蔵文化財調査員	
	江口 邦泰	生涯学習課埋蔵文化財調査員	

発掘調査作業員	扇田 正義	川目 嘉郎	坂本 晃	佐々木 彰	佐々木信晴	佐々木英生
	鈴木恵美子	鈴木 祥一	田沢 和徳	中嶋 正裕	中田 隆	西村 敏光
	福士 祐二	山内 勝雄	山根 保行			
資料整理作業員	鈴木恵美子	福士 祐二				



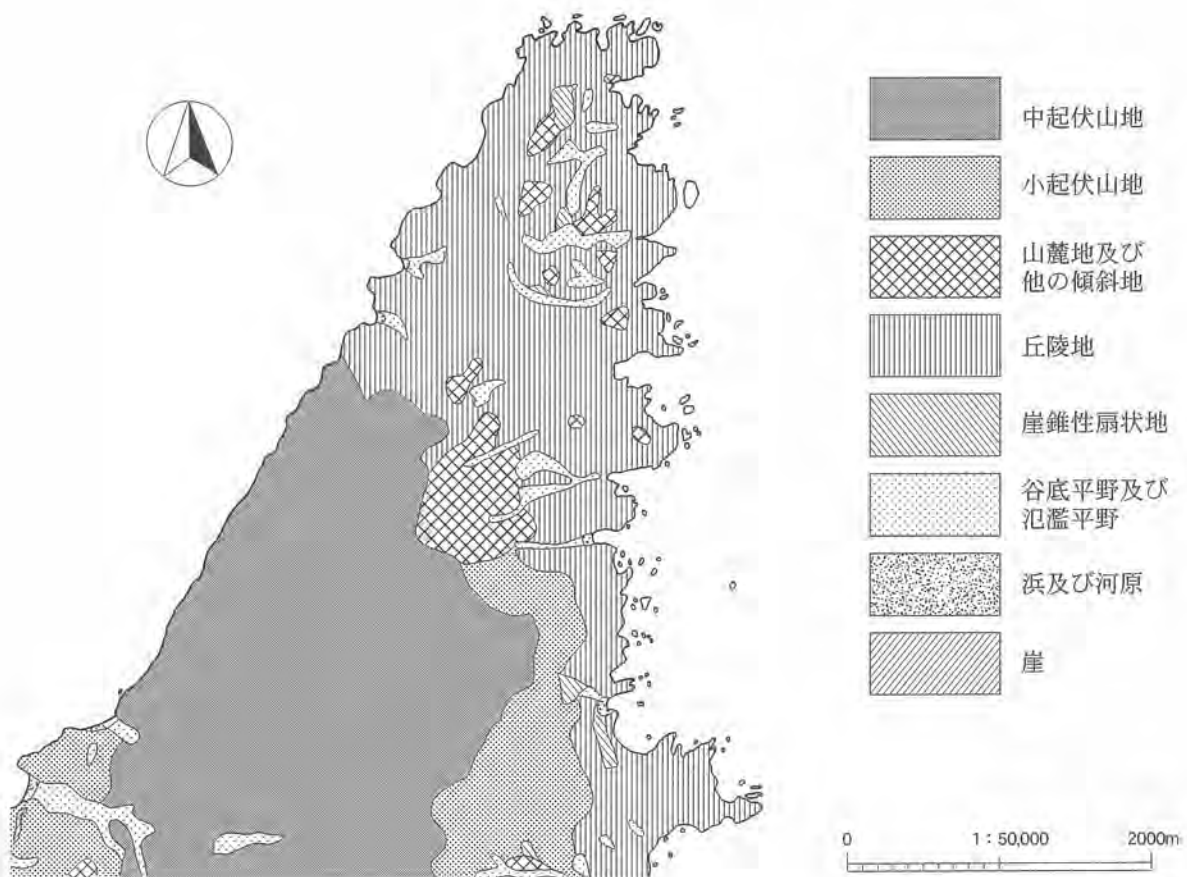
第1図 市道閉伊崎線発掘調査地点

第2節 地理的環境

宮古市は三陸沿岸のほぼ中央に位置する人口約5万4千人の都市で、市域は339,480㎡（平成13年）である。東側には本州最東端に位置する重茂半島と大きく入り込んだ宮古湾がみられ、西側には北上山地が広がっている。宮古湾には、宮古市の中心部を流れる閉伊川と津軽石・赤前地区を流れる津軽石川の2つの河川が注ぎ込んでいる。

宮古市は岩手県随一の景勝地である浄土ヶ浜を有しており、この地域を境として海岸線の景観が南北に異なっていることはよく知られている。南側には沈降海岸であるリアス式海岸がみられ、釜石湾や大船渡湾のように大きく入り込んだ湾が多いのが特徴である。北側には隆起海岸である切り立った断崖をみることができ、鶴の巣断崖や北山崎などの観光地が点在している。

今回調査を実施した重茂半島の地形は、月山（456m）・十二神山（731m）などの十二神山山地と半島北側から東側の海岸線に沿ってみられる鮭ヶ崎丘陵に大きく分けられる。西側の海岸は宮古湾の一部を形成し直線的な断崖となっているが、太平洋に面した東側の海岸ではやや入り込んだ複雑な様相を呈している。半島の北側先端部である閉伊崎地区は主に丘陵地となっており、地質的には中生界白亜系の宮古層群が分布している。この宮古層群は蛸ノ浜から日出島の海岸沿いにも分布しており、化石が産出することで知られている。



第2図 重茂半島地形分類図

第3節 歴史的環境

現在、宮古市において周知されている遺跡数は469箇所にのぼる。その中で、重茂半島における遺跡は79箇所が知られ、縄文時代から近世にかけての各時代の遺跡がみられる。遺跡の分布は大きく赤前、重茂、千鷄・川代、鵜磯・閉伊崎の4つの地区に分けることができる。

赤前地区は重茂半島の西側に位置し、宮古湾の最奥部にあたる。宮古湾に面した丘陵地や扇状地上に集中して遺跡が分布しており、赤前Ⅲ遺跡（昭和54・57年・平成9年）、赤前Ⅳ八枚田遺跡（昭和54年・平成7年）、赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡（平成5年）、小堀内Ⅲ遺跡（平成5・6年）、赤前Ⅴ柳沢遺跡（平成6・7年）が調査されている。これらの調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出され、土師器・須恵器・鉄製品などの遺物も多数出土している。赤前地区の大きな特徴は鍛冶炉跡が集中していることで、現在まで計9基確認されている。その中で、竪穴住居内に構築された鍛冶炉跡は4基確認され、集落として鉄生産に関わっていたものと推測されている。

重茂地区は、重茂半島の東側に位置する太平洋に面した地区である。音部・館・里などの集落が点在し、それぞれの集落に重なるように遺跡が分布している。平成2年には住宅建築に伴い小規模ではあるが重茂館遺跡群が調査されている。縄文時代中期と後期後半～晩期前半の土器や石器などが層位的に多数出土し、土器捨て場であることが確認されている。また、縄文時代中期前葉の層からは、手足や目、鼻などを表現した板状土偶が出土し、宮古市内でも古い時期の土偶として貴重なものである。多数の遺物が出土していることから、周辺に縄文時代の大規模な集落の存在が想定されている。中世になると重茂半島を所領とした重茂氏の城館である重茂館が造られ、主郭や二の郭、空堀跡などをみることができる。

重茂地区のさらに南側に位置するのが千鷄・川代地区で、千鷄遺跡、千鷄Ⅱ～Ⅵ遺跡、石浜Ⅰ～Ⅲ遺跡、川代Ⅰ～Ⅲ遺跡が分布している。昭和62年には千鷄遺跡が調査され、縄文時代前期初頭の集落跡が見つかり、さらに平成7・8年には千鷄Ⅳ遺跡が調査され、縄文時代前期中葉・中期前葉・中期後葉の竪穴住居跡や弥生時代前期の竪穴住居跡が検出されている。この他、表採資料ではあるが、縄文時代早期から後期にかけての土器がみられる。

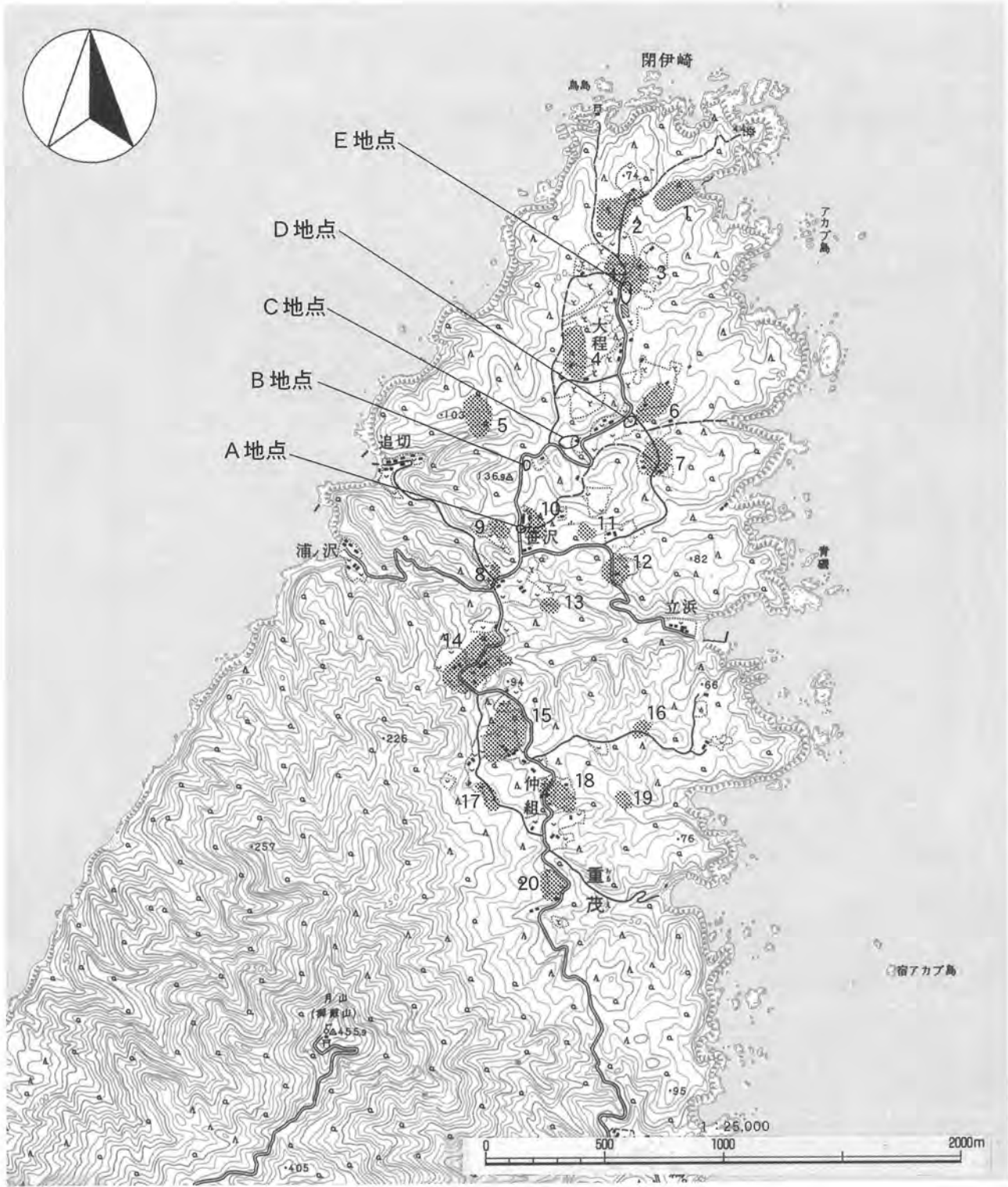
鵜磯・閉伊崎地区は重茂半島の北側先端部にあたり、月山の北側に広がる鮭ヶ崎丘陵上に遺跡が分布している。平成4年から平成6年にかけて市道浦の沢線改良工事に伴い調査が行われている。笹沢Ⅰ遺跡からは縄文時代早期末葉の竪穴状遺構が検出されており、現在のところ宮古市内で最も古い時期の遺構である。加村遺跡からは中世～近世初頭の墓壇と縄文時代中期後半のフラスコ状土坑が検出され、堺ノ神遺跡からは縄文時代中期後半の遺物包含層が検出されている。

今回調査を実施したA～E地点の周囲にも遺跡が分布しており、A地点を挟んで東西にはそれぞれ笹沢Ⅱ・Ⅲ遺跡、B・C地点の北西側の斜面上には追切遺跡、D地点（大程Ⅱ遺跡）の南北には大程Ⅰ・Ⅲ遺跡、E地点の北側には大浜Ⅰ・Ⅱ遺跡が存在する。ほとんどの遺跡が現在の道路周辺もしくは民家の隣接地に立地している。



遺跡コード	遺跡名	発掘調査年
1	LG25-2211 大浜Ⅰ	
2	LG25-1129 大浜Ⅱ	
3	LG25-2159 平浜	
4	LG25-2187 大程Ⅰ	
5	LG35-0113 追切	
6	LG35-0201 大程Ⅱ	
7	LG35-0230 大程Ⅲ	
8	LG35-0184 笹沢Ⅰ	平成5年
9	LG35-0164 笹沢Ⅱ	
10	LG35-0155 笹沢Ⅲ	
11	LG35-0168 笹沢Ⅳ	
12	LG35-0179 立浜	
13	LG35-0196 笹沢Ⅴ	
14	LG35-1123 加村	平成5・6年
15	LG35-1144 赤なしが沢	
16	LG35-1240 仲組Ⅰ	
17	LG35-1174 仲組Ⅱ	
18	LG35-1177 仲組Ⅲ	平成5年
19	LG35-1179 仲組Ⅴ	
20	LG35-2117 堺ノ神	平成4年
21	LG45-0274 糺磯	
22	LG45-1222 荒巻Ⅰ	
23	LG45-1137 荒巻Ⅱ	
24	LG44-0351 白浜Ⅰ	
25	LG44-0268 白浜Ⅱ	
26	LG44-0287 白浜Ⅲ	
27	LG44-1209 白浜Ⅳ	
28	LG44-1234 白浜太田浜Ⅰ	
29	LG44-1247 白浜太田浜Ⅱ	
30	LG44-1311 白浜Ⅴ	
31	LG44-1317 白浜Ⅵ	
32	LG44-1328 白浜Ⅶ	
33	LG44-1271 白浜太田浜Ⅲ	
34	LG44-1282 白浜太田浜Ⅳ	
35	LG44-1290 白浜太田浜Ⅴ	
36	LG44-1155 堀内Ⅰ	
37	LG44-2167 堀内Ⅱ	
38	LG44-2290 堀内Ⅲ	
39	LG44-2195 堀内Ⅳ	
40	LG54-0113 小堀内Ⅰ	
41	LG54-0123 小堀内Ⅱ	
42	LG54-0142 小堀内Ⅲ	平成5・6年
43	LG54-0160 赤前Ⅵ釜屋ヶ沢	平成5年
44	LG54-0089 赤前Ⅴ柳沢	平成6・7年
45	LG54-1008 赤前Ⅳ八枚田	昭和54年、平成7年
46	LG54-1025 赤前Ⅲ	昭和54・57年、平成9年
47	LG54-1064 赤前館	
48	LG54-1072 赤前Ⅰ牛子沢	昭和59年、平成4年
49	LG53-1389 久保田	
50	LG45-2154 小角柄Ⅳ	
51	LG45-2156 小角柄Ⅲ	
52	LG45-2146 小角柄Ⅱ	
53	LG45-2159 小角柄Ⅰ	
54	LG45-2225 音部大下	
55	LG45-2294 音部追磯	
56	LG45-2239 音部谷地頭Ⅰ	
57	LG45-2268 音部谷地頭Ⅱ	
58	LG45-2296 音部谷地頭Ⅲ	
59	LG54-1379 麦生野Ⅵ	
60	LG55-1071 麦生野Ⅴ	
61	LG55-1052 麦生野Ⅳ	
62	LG55-1022 麦生野Ⅲ	
63	LG55-0083 麦生野Ⅰ	
64	LG55-1004 麦生野Ⅱ	
65	LG55-0242 笹見内Ⅰ	
66	LG55-0234 笹見内Ⅱ	
67	LG55-0284 重茂館遺跡群	平成2年
68	LG75-0345 千鷲	昭和62年
69	LG75-0363 千鷲Ⅱ	
70	LG75-0332 千鷲Ⅲ	
71	LG75-0248 千鷲Ⅳ	平成7・8年
72	LG75-0245 千鷲Ⅴ殿畑	
73	LG75-1311 千鷲Ⅶ川向	
74	LG75-1238 石浜Ⅰ	
75	LG75-1227 石浜Ⅱ	
76	LG75-1264 石浜Ⅲ	
77	LG85-0188 川代Ⅰ	
78	LG85-0176 川代Ⅱ	
79	LG85-0183 川代Ⅲ	

第3図 重茂半島の遺跡分布



	遺跡コード	遺跡名	遺構・遺物
1	LG25-2211	大浜 I	縄文土器
2	LG25-1129	大浜 II	縄文前・中・後期・土師器
3	LG25-2159	平浜	縄文中・後期土器
4	LG25-2187	大程 I	縄文前・中・後期土器
5	LG35-0113	追切	縄文中・後期土器
6	LG35-0201	大程 II	縄文前・中期土器
7	LG35-0230	大程 III	縄文土器
8	LG35-0184	笹沢 I	縄文土器
9	LG35-0164	笹沢 II	縄文土器
10	LG35-0155	笹沢 III	縄文土器

	遺跡コード	遺跡名	遺構・遺物
11	LG35-0168	笹沢 IV	縄文土器
12	LG35-0179	立浜	縄文前・中期土器
13	LG35-0196	笹沢 V	縄文土器
14	LG35-1123	加村	縄文後・晩期土器
15	LG35-1144	赤なしが沢	縄文前・中・後期土器
16	LG35-1240	仲組 I	縄文土器
17	LG35-1174	仲組 II	縄文土器
18	LG35-1177	仲組 III	縄文土器
19	LG35-1179	仲組 V	縄文土器
20	LG35-2117	堺ノ神	縄文土器

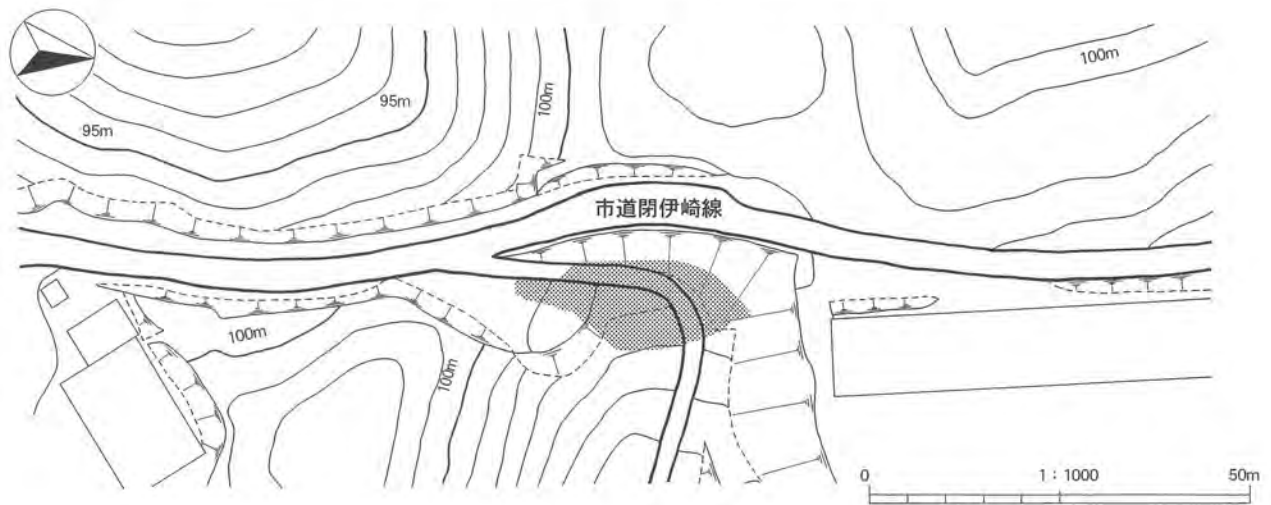
第4図 周辺の遺跡分布

第2章 遺構と遺物

第1節 A地点

(1) 概要 (第5図 写真1・2)

A地点は、南北に延びる尾根上の平坦面に立地し、東西それぞれの斜面には笹沢Ⅱ遺跡・笹沢Ⅲ遺跡が分布している。既存道路の東側において、工事立会を行った。表土から30cm～40cm掘り下げたところで地山である風化花崗岩が検出され、遺構・遺物は確認されなかった。



第5図 A地点 周辺地形図



1 A地点 調査前状況 (南→)



2 A地点 堆積状況

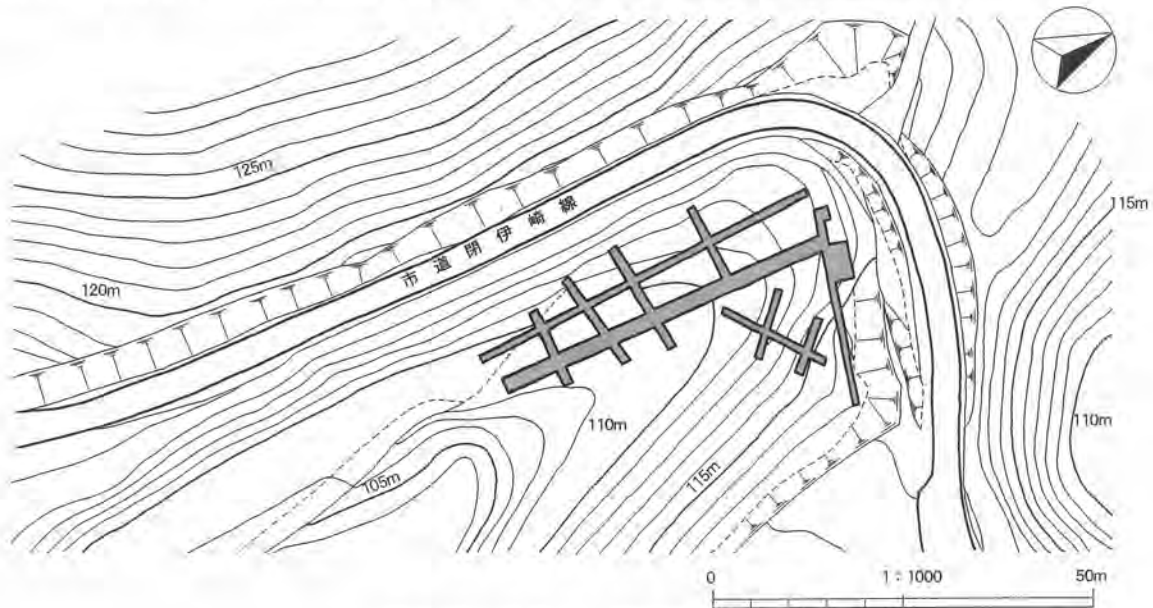
第2節 B地点

(1) 概要 (第6～8図 写真3～5)

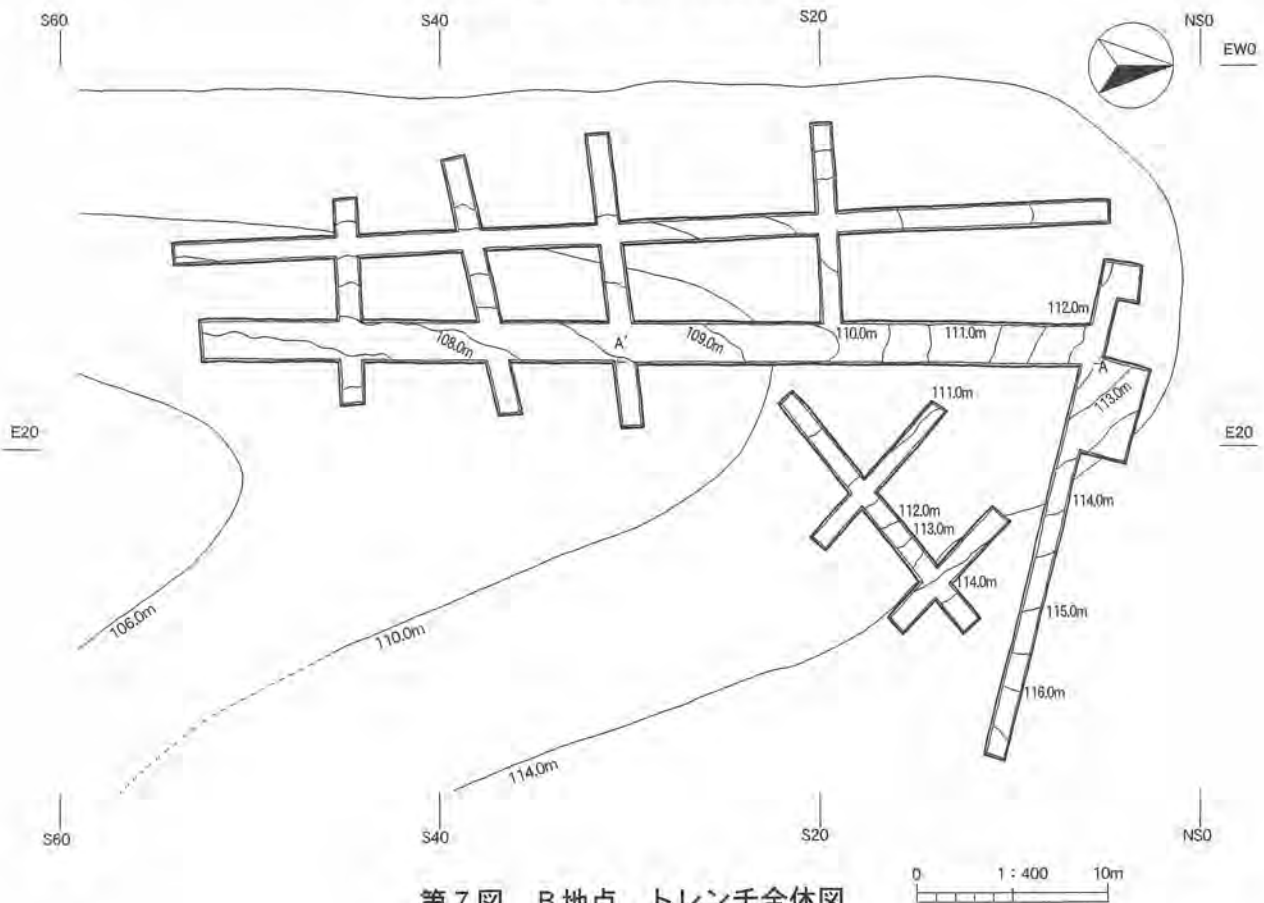
B地点は、沢によって形成された南向きの緩斜面に位置する。標高は約110mで、調査前の状況は山林である。南北方向に2本、東西方向に1本のトレンチを設定し、さらに南北・東西両トレンチの

間にもトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

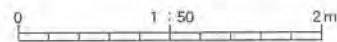
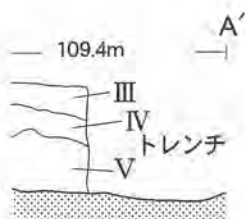
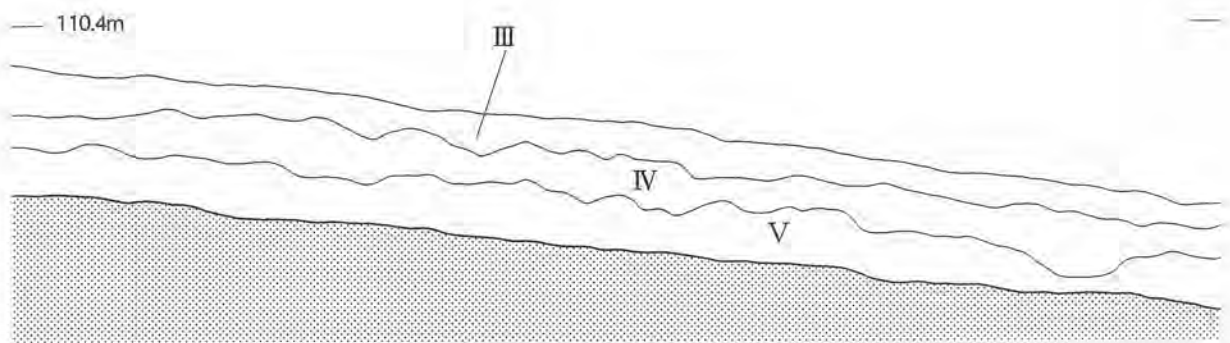
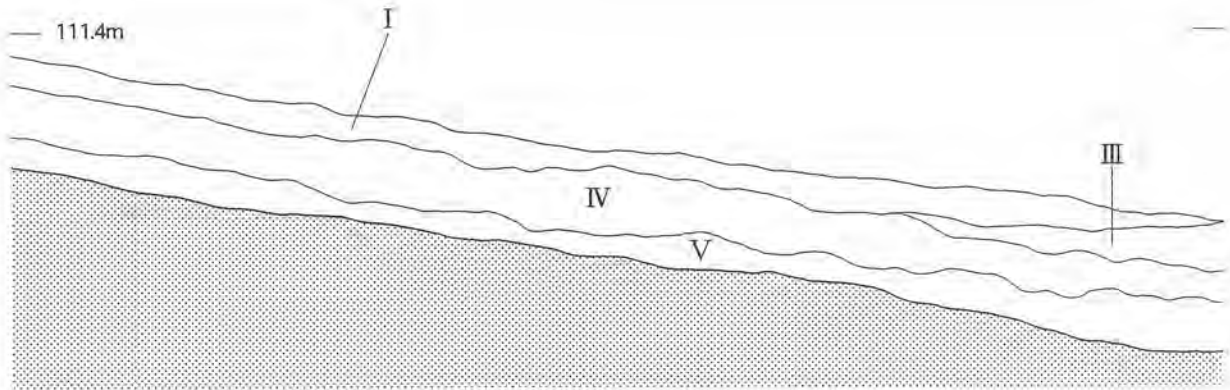
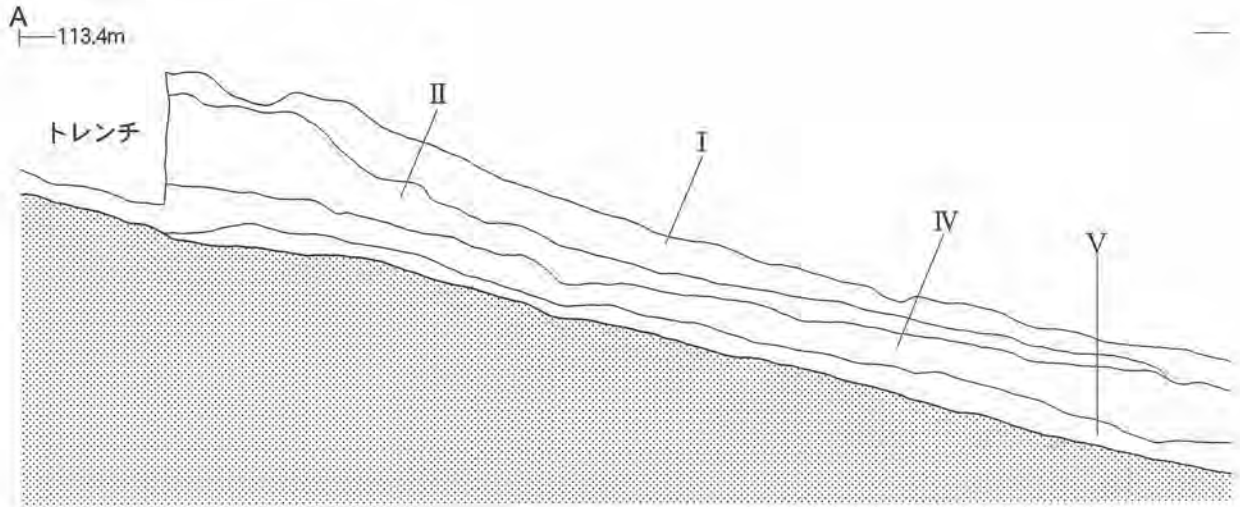
堆積土は5層に分けられる。Ⅰ層は灰黄褐色を呈する砂質埴壤土で、トレンチ北側にのみ堆積し道路造成時に盛土されたものである。Ⅱ層はにぶい黄褐色を呈する砂質埴壤土で、Ⅰ層同様盛土である。Ⅲ層は灰黄褐色を呈する砂質埴壤土である。Ⅳ層は黒褐色を呈する砂質埴壤土で、トレンチの全範囲に堆積している。Ⅴ層は黒褐色を呈する砂質埴壤土で地山漸移層である。Ⅳ層よりややしまりがある。Ⅲ層～Ⅴ層は堆積状況から自然堆積と思われる。B地点から遺構・遺物は確認されなかった。



第6図 B地点 周辺地形図



第7図 B地点 トレンチ全体図



B地点土層観察表

層名	基本土	備考
I	10YR5/2 灰黄褐色砂質壇壤土	しまりなし
II	10YR5/3 にぶい黄褐色砂質壇壤土	しまりなし
III	10YR4/2 灰黄褐色砂質壇壤土	しまりなし
IV	10YR3/1 黒褐色砂質壇壤土	しまりなし
V	10YR3/2 黒褐色砂質壇壤土	しまりややあり

第8図 B地点 トレンチ断面図



3 B地点 調査前状況 (南→)



B地点

4 トレンチ掘り下げ状況 (西→)



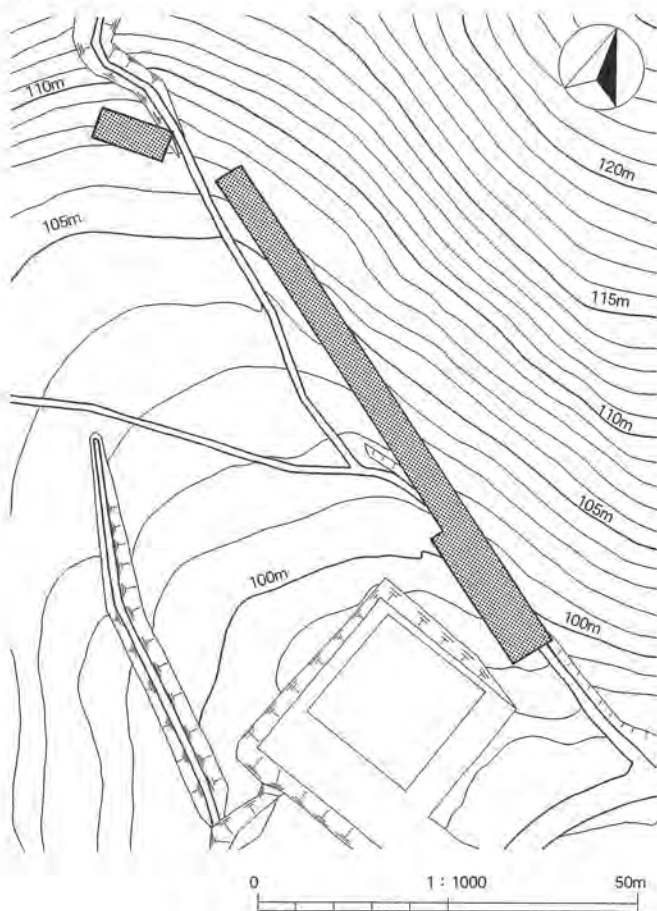
5 B地点 堆積状況 (西→)

第3節 C地点

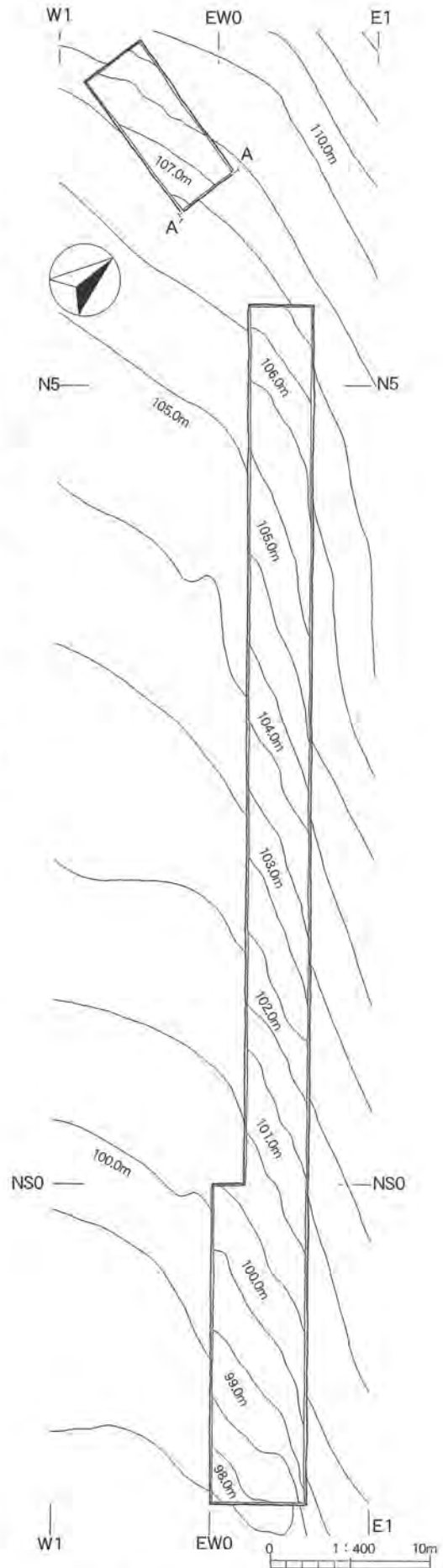
(1) 概要 (第9～11図 写真6～10)

C地点は南東向きに緩斜面に位置し、調査前の状況は山林である。標高は約95m～105mと南北で約10mの比高差がある。市道改良工事計画の範囲により南北に10m×4mと75m×4mの2本のトレンチを設定した。トレンチの南側20mは幅6mに拡張している。

堆積土は3層に分けられる。Ⅰ層は表土層で、褐灰色を呈する砂壤土である。しまりはなく、0.5cm～5cm大の礫が含まれる。Ⅱ層は褐灰色を呈する砂壤土で、Ⅰ層同様しまりはなく、0.5cm～5cm大の礫が含まれる。Ⅲ層はにぶい黄褐色を呈する砂壤土を基本土とした地山漸移層である。地山は南側に向かって緩やかに傾斜しており、地表面における等高線の傾斜ラインとほぼ一致する。表土から地山までの層厚は30cm～80cmとばらつきがみられるが、トレンチ範囲内は全てⅠ層～Ⅲ層の層序となっている。遺構は確認されなかったが、Ⅱ・Ⅲ層から遺物が出土している。



第9図 C地点 周辺地形図



第10図 C地点 トレンチ全体図

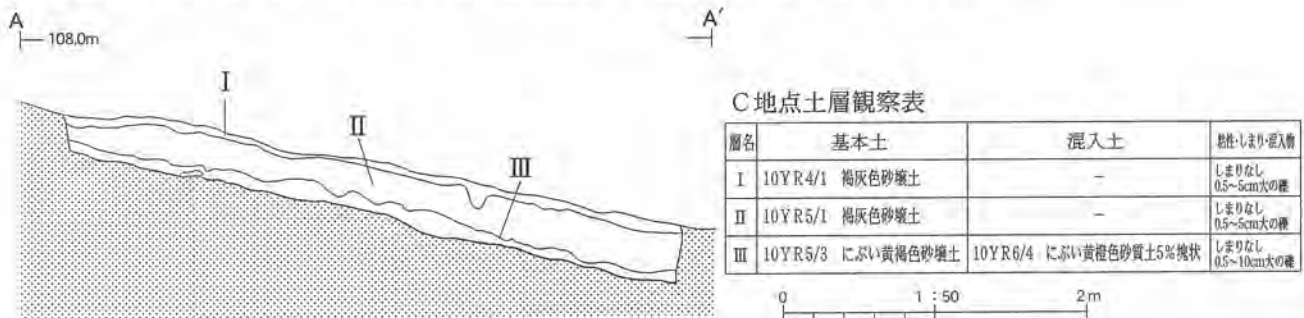
(2) 出土遺物 (第12図 写真11)

C地点から出土した遺物は、縄文土器9点、石斧1点、寛永通宝1枚である。

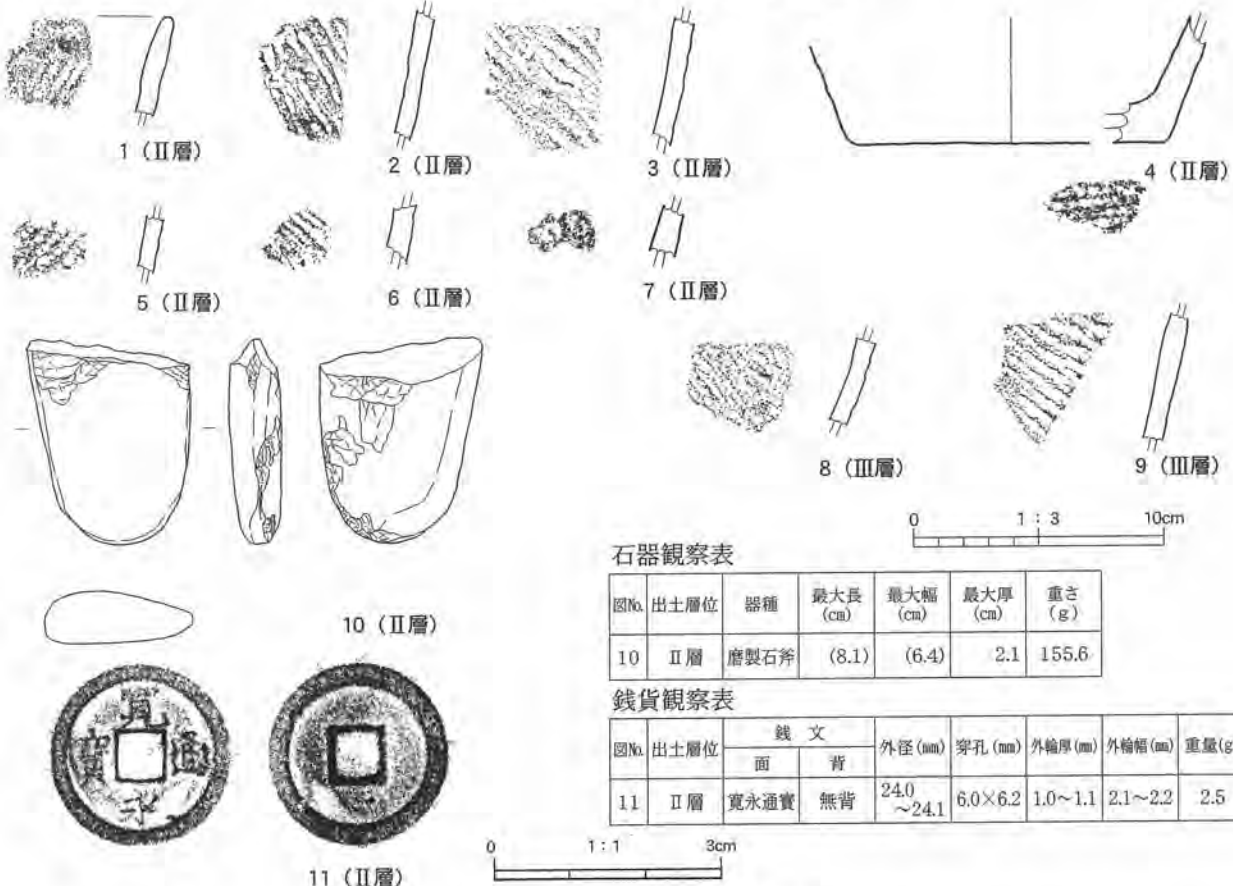
1～9は縄文土器である。1～7はⅡ層から出土し、8・9はⅢ層から出土している。1は口縁部の破片で、地文にはRL単節斜縄文が施文されているが、口唇部はナデ調整により磨り消されている。2は地文に左撚りの無節縄文が施文され、3・8・9は地文にLR単節斜縄文が施されている。4は底部の破片であるが、摩耗のため外面及び底面に文様はみられない。5は地文にRL単節斜縄文が施文されている。6・7は表面に縄文が観察されるが、摩耗のため撚りの種類などは不明である。地文に縄文を施文するものが大半を占めており、所属時期を限定することはできない。

10は磨製石斧でⅡ層から出土している。基部は欠損しており、残存値は長さ8.1cm、幅6.4cm、厚さ2.1cmを測る。両側面から先端部にかけて磨きによる面取りがされている。

11は寛永通宝でⅡ層から出土している。一文銭の銅銭で、銭文面は寛永通寶、背は無背である。銭文面の「通」と「永」の間に6mm×1.5mmほどの細長い欠損の孔がみられる。



第11図 C地点 トレンチ断面図



第12図 C地点 出土遺物

C地点 調査前状況（西→） 6



C地点 調査前状況（西→） 7



C地点
トレンチ掘り下げ状況（西→） 8

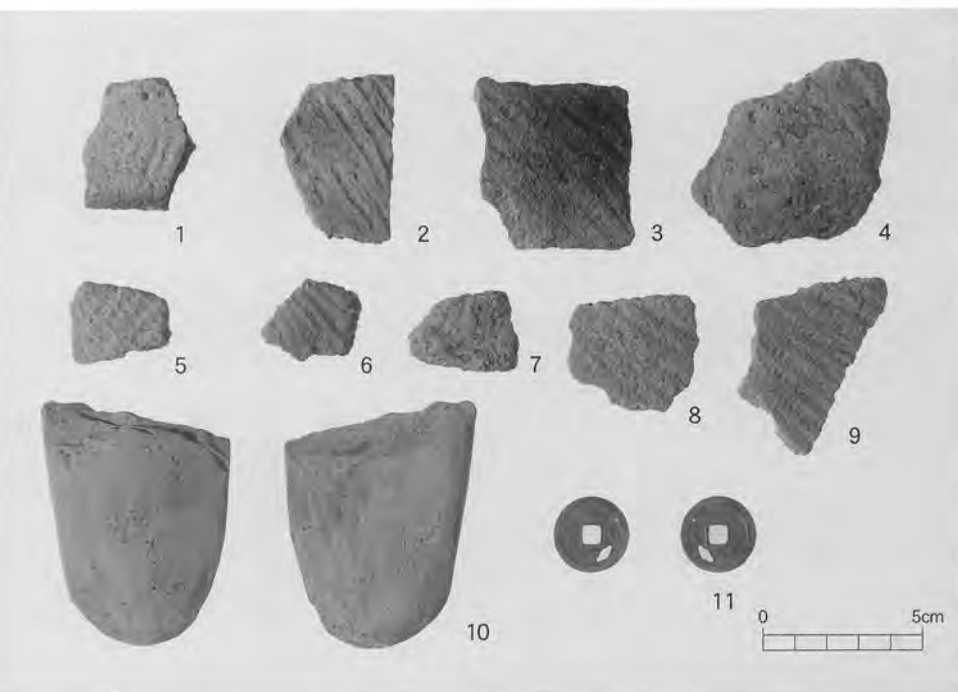




9 C地点 堆積状況 (南→)



C地点
10 トレンチ掘り下げ状況 (東→)



11 C地点 出土遺物

第4節 D地点（大程Ⅱ遺跡）

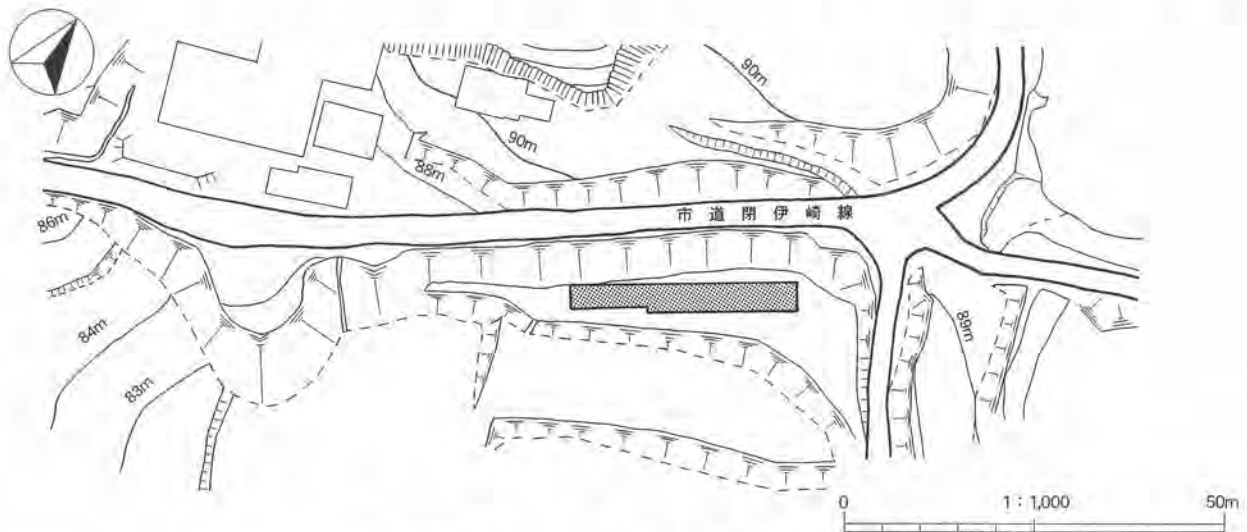
(1) 概要（第13～16図 写真12～14）

D地点は、市道閉伊崎線「大程」バス停の南側に位置し、道路から南へ3mほど下がった標高約83m～84mの平坦部に立地する。調査前の状況は松林となっており、南へさらに一段下がった平坦部は畑地として利用されている。北側の尾根上には大程Ⅰ遺跡、南側に流れる沢の周辺には大程Ⅲ遺跡が分布している。東西に長い平坦部に東西30m、南北4mのトレンチを設定し、西側10mは平坦部が狭くなっているために南北幅3mとなっている。

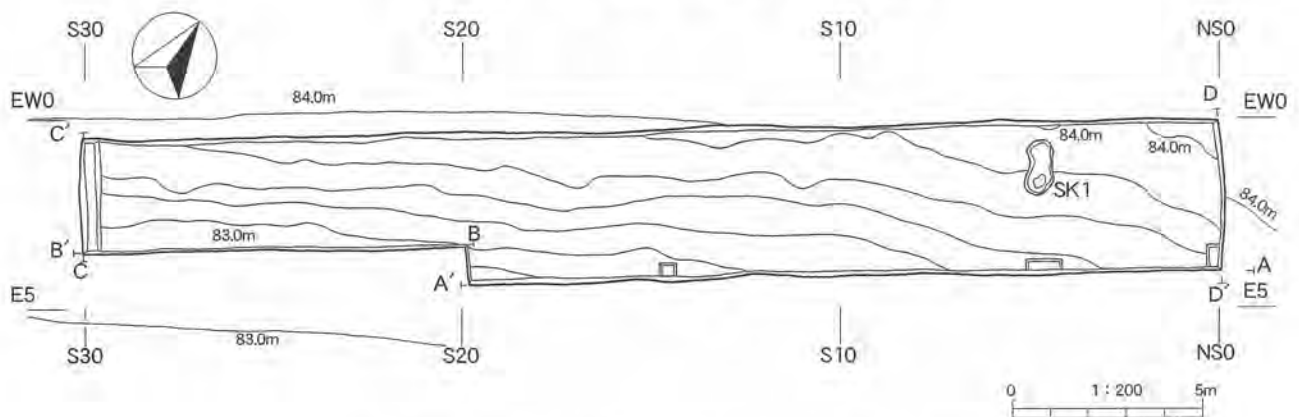
トレンチ内の堆積土は大きくⅠ～Ⅳ層に分けられ、36層に細別された。

Ⅰ層は表土層で、暗褐色を呈する埴壤土を基本土とする。トレンチ内の全範囲に堆積し、層厚は5cm～10cmである。

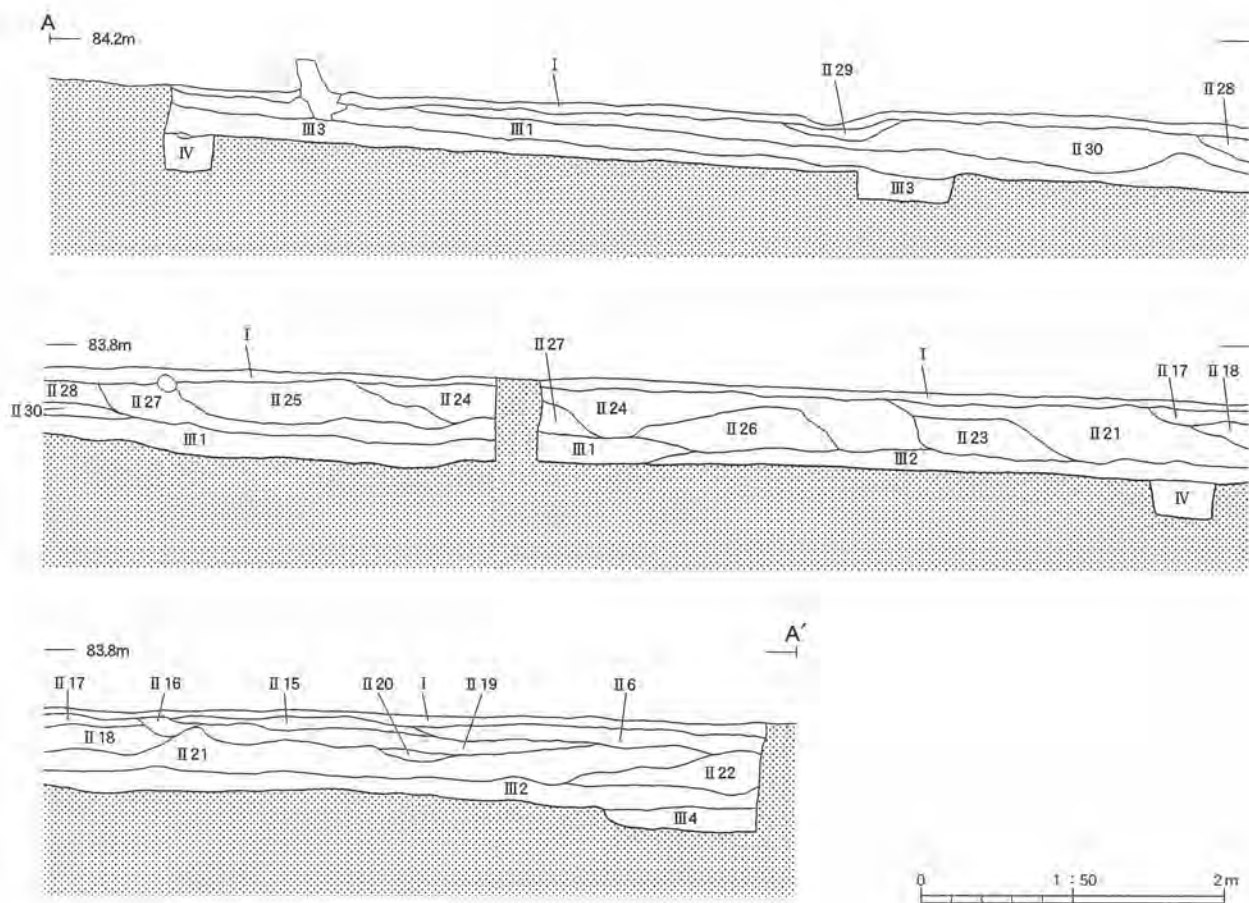
Ⅱ層（Ⅱ1～Ⅱ30層）は盛土層で、盛土を行った際の塊状または層状の混入土が断面で確認された。混入土は土色や土質、混入物などに違いがみられ明瞭に分層することができたため、Ⅱ層をさらに30層に細別し図示した。Ⅱ層の基本土は埴壤土で、明赤褐色・橙色・暗褐色・褐色などの様々な土色がみられ、0.1cm～10cm大の大小様々な赤褐色を呈したブロック状の土塊が多く混入している。これら



第13図 D地点（大程Ⅱ遺跡）周辺地形図



第14図 D地点（大程Ⅱ遺跡）トレンチ全体図

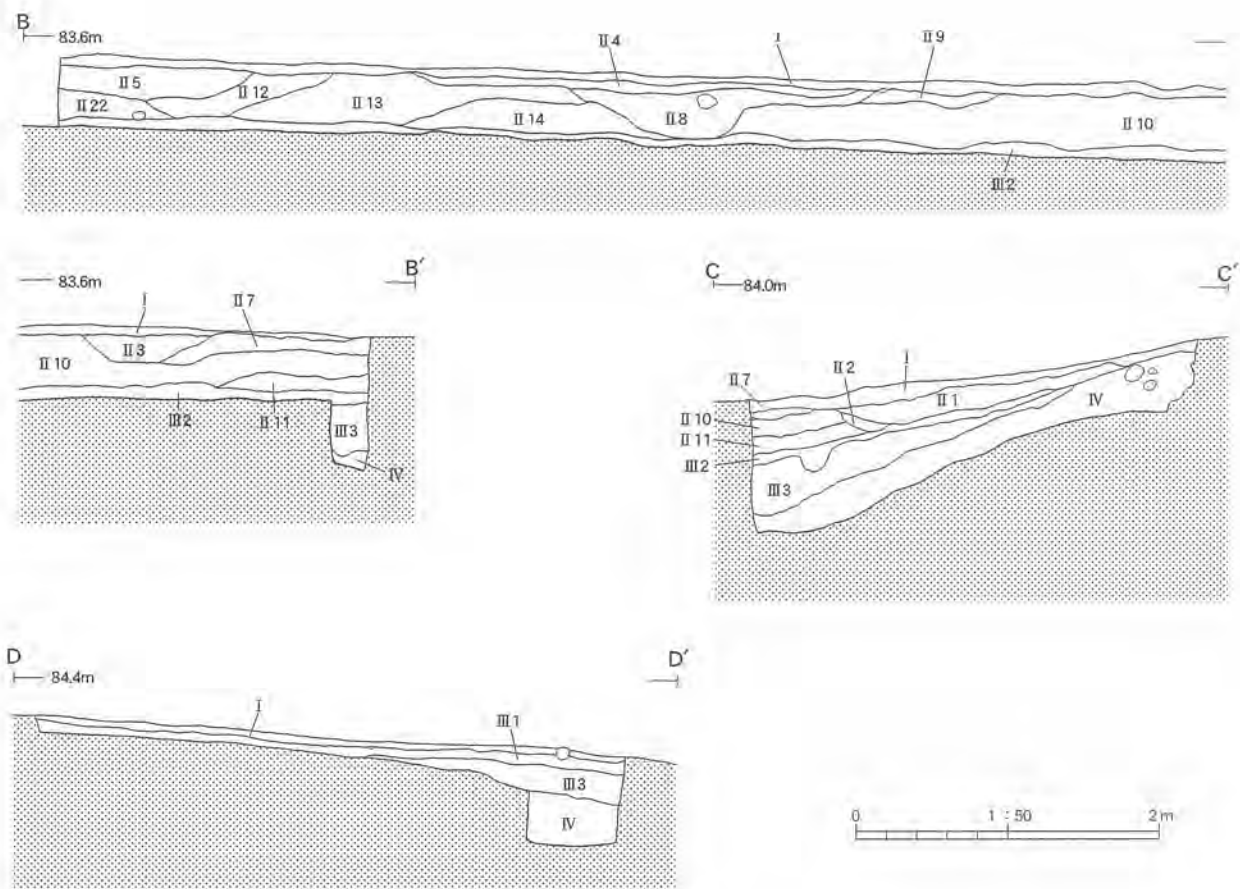


D地点（大程Ⅱ遺跡）土層観察表

層名	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
I	7.5Y R3/3 暗褐色埴壤土	5Y R6/4 にぶい橙色埴壤土30%塊状	軟質、しまりややあり
II 1	5Y R5/6 明赤褐色埴壤土	10Y R3/1 黒褐色埴壤土40%塊状	軟質、しまりあり 0.5cm~5cm大の礫
II 2	7.5Y R2/1 黒褐色埴壤土	5Y R5/6 明赤褐色埴壤土30%粒状	軟質、しまりあり 0.1cm~1cm大の礫
II 3	7.5Y R4/4 褐色埴壤土	7.5Y R6/8 褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 2cm~3cm大の礫
II 4	10Y R5/8 黄褐色埴壤土	7.5Y R6/8 褐色埴壤土40%粉状	硬質、しまりあり 2cm~3cm大の礫
II 5	5Y R6/6 橙色埴壤土	7.5Y R7/4 にぶい橙色埴壤土40%粉状	硬質、しまりあり 2cm~4cm大の礫
II 6	5Y R4/4 にぶい赤褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土40%塊状	やや硬質、しまりあり 0.5cm~3cm大の礫
II 7	7.5Y R3/3 暗褐色埴壤土	7.5Y R3/4 暗褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 2cm~3cm大の礫
II 8	7.5Y R5/6 褐色埴壤土	5Y R5/6 明赤褐色埴壤土40%粒状	硬質、しまりあり 2cm~4cm大の礫
II 9	7.5Y R5/4 にぶい褐色埴壤土	7.5Y R6/6 褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 2cm~4cm大の礫
II 10	5Y R6/8 橙色埴壤土	7.5Y R7/8 黄褐色埴壤土40%塊状	軟質、しまりあり 1cm大の礫
II 11	7.5Y R5/6 明褐色埴壤土	5Y R5/8 明赤褐色埴壤土40%塊状	軟質、しまりあり 0.1cm~3cm大の礫
II 12	7.5Y R3/3 暗褐色埴壤土	7.5Y R5/6 明褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 2cm~4cm大の礫
II 13	7.5Y R6/4 にぶい橙色埴壤土	5Y R6/8 褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 1cm~4cm大の礫
II 14	5Y R6/6 褐色埴壤土	5Y R7/3 褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 2cm~4cm大の礫
II 15	7.5Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土30%粉状	硬質、しまりあり 0.5cm大の礫
II 16	10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土30%塊状	硬質、しまりあり 2cm大の礫
II 17	7.5Y R4/3 褐色埴壤土	10Y R6/6 明黄褐色埴壤土30%塊状	硬質、しまりあり 3cm大の礫

層名	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
II 18	7.5Y R3/4 暗褐色埴壤土	7.5Y R6/6 褐色埴壤土3%粉状	硬質、しまりあり 5cm大の礫
II 19	7.5Y R3/3 暗褐色埴壤土	5Y R4/4 にぶい赤褐色埴壤土30%粉状	硬質、しまりあり 0.5cm~2cm大の礫
II 20	10Y R6/6 明黄褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土30%塊状	硬質、しまりあり
II 21	5Y R3/2 明赤褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土30%粉状	硬質、しまりあり 0.5cm~5cm大の礫
II 22	5Y R6/6 褐色埴壤土	7.5Y R4/3 褐色埴壤土40%塊状	硬質、しまりあり 1cm~4cm大の礫
II 23	7.5Y R3/4 暗褐色埴壤土	7.5Y R3/2 黒褐色埴壤土40%粉状	硬質、しまりあり 2cm~5cm大の礫
II 24	10Y R4/3 にぶい黄褐色埴壤土	7.5Y R3/2 黒褐色埴壤土20%粉状	硬質、しまりあり 2cm~5cm大の礫
II 25	10Y R4/6 褐色埴壤土	7.5Y R3/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりあり
II 26	10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	硬質、しまりあり 0.2cm~0.5cm大の礫
II 27	10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R6/6 明黄褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりややあり 0.1cm大の砂粒
II 28	10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R3/2 黒褐色埴壤土30%塊状	硬質、しまりあり 0.1cm大の砂粒
II 29	7.5Y R3/2 黒褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土5%塊状	硬質、しまりあり
II 30	7.5Y R3/2 褐色埴壤土	7.5Y R3/3 暗褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりあり
III 1	7.5Y R3/2 黒褐色埴壤土	7.5Y R5/6 明褐色埴壤土5%塊状	硬質、しまりややあり
III 2	10Y R4/4 褐色シルト質埴壤土	7.5Y R5/6 明褐色埴壤土5%塊状	硬質、しまりあり
III 3	7.5Y R5/8 明赤褐色シルト質埴壤土	7.5Y R6/8 褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりあり 2cm~3cm大の礫
III 4	10Y R3/4 暗褐色埴壤土	5Y R5/6 明赤褐色埴壤土1%塊状	硬質、しまりあり
IV	10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土3%塊状	硬質、しまりややあり

第15図 D地点（大程Ⅱ遺跡）トレンチ断面図（1）



第16図 D地点（大程Ⅱ遺跡）トレンチ断面図（2）

の土は地山層に多くみられるもので、地山層を削りそれらの土を盛土として利用したと考えられる。しかし、地山層を削った痕跡は周辺にはみられず、場所を特定することはできなかった。

Ⅱ層はトレンチの北側と東側ではほとんど堆積がみられず、Ⅱ層の下層には、北側においては地山層が、東側においては後述するⅢ層（地山漸移層）が堆積している。さらに、Ⅱ層はトレンチ南側に向かって層厚が厚くなっており、地山層がトレンチ南側へ緩やかに傾斜していることと対応しているものと思われる。地山層の状況から原地形は南へ緩やかに傾斜していたと考えられ、トレンチ北側のレベルを平坦面の基準とし傾斜面に対して盛土を行うことにより平坦部を構築したと推測される。

Ⅱ層中からは縄文土器・石鏃・茶碗の欠片・ガラス片などが出土しているが、層位的な出土状況ではなく、全て盛土の際に混入したものと考えられる。

Ⅲ層（Ⅲ1～Ⅲ4層）は地山漸移層で、4層に細別される。黒褐色や褐色を呈する埴壤土で、赤褐色粒が少量含まれている。トレンチ内の全範囲に堆積し、土器・石器などの出土はみられない。

Ⅳ層は地山層で、黒褐色を呈する埴壤土を基本土とする。0.1cm～10cm大の礫が多数含まれている。

(2) 1号土坑 SK1（第17図 写真15～17）

1号土坑はトレンチ東壁から7m西側のⅢ層上面で検出されている。平面形態は南北に長い楕円形

を呈し、真ん中で若干窪んでいる。規模は長軸1.46m、短軸0.79mで、検出面から底面までの深さは約10cmを測る。

土坑内の堆積土は3層に分けられる。1層は褐色を呈する壤土で、北側の一部と南側に堆積している。層厚は約4cmと薄い、少量の鉄滓が出土している。2層は黒色を呈する壤土で、にぶい黄褐色砂壤土が混入しており、多量の鉄滓が出土している。3層は黒色を呈する壤土で、2層と比べ若干しまりがある。堆積土中に焼土層や炭層などは確認されなかった。

遺物は鉄滓・羽口片・剥片が出土している。鉄滓は1・2層から出土し、鉄滓の総重量は計4.85kgを測る。このうち流動滓は2.71kgで全体の約56%を占め、3cm～4cm大のものが多くみられる。

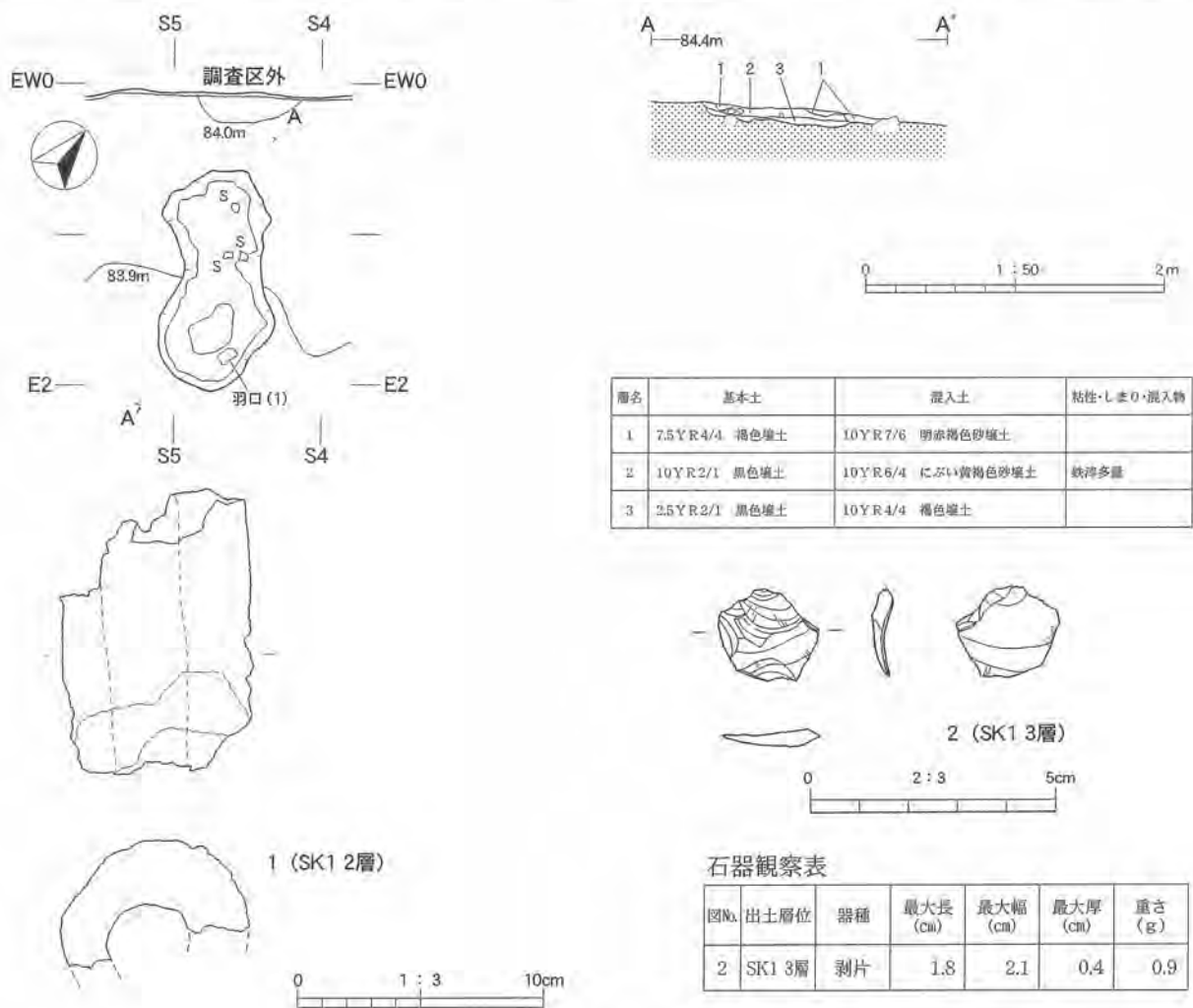
羽口片(1)は南壁際の2層から出土している。大部分が欠損しているが、長さ11.4cm、幅7.7cm、孔幅3.3cmを測る。先端部分には溶着滓がみられる。

剥片(2)は3層から出土している。最大長1.8cm、最大幅2.1cm、最大厚0.4cm、重さ0.9gを測り、石材は頁岩である。二次的な調整剥離はみられない。

(3) 遺構外出土遺物 (第18図 写真17)

遺構外からは縄文土器・弥生土器・磨製石斧・削器・石鎌が出土している。

3～10・12は縄文土器である。3～10はⅡ層から出土し、盛土層に混入していたもので、12はトレ



第17図 D地点 (大程Ⅱ遺跡) 1号土坑

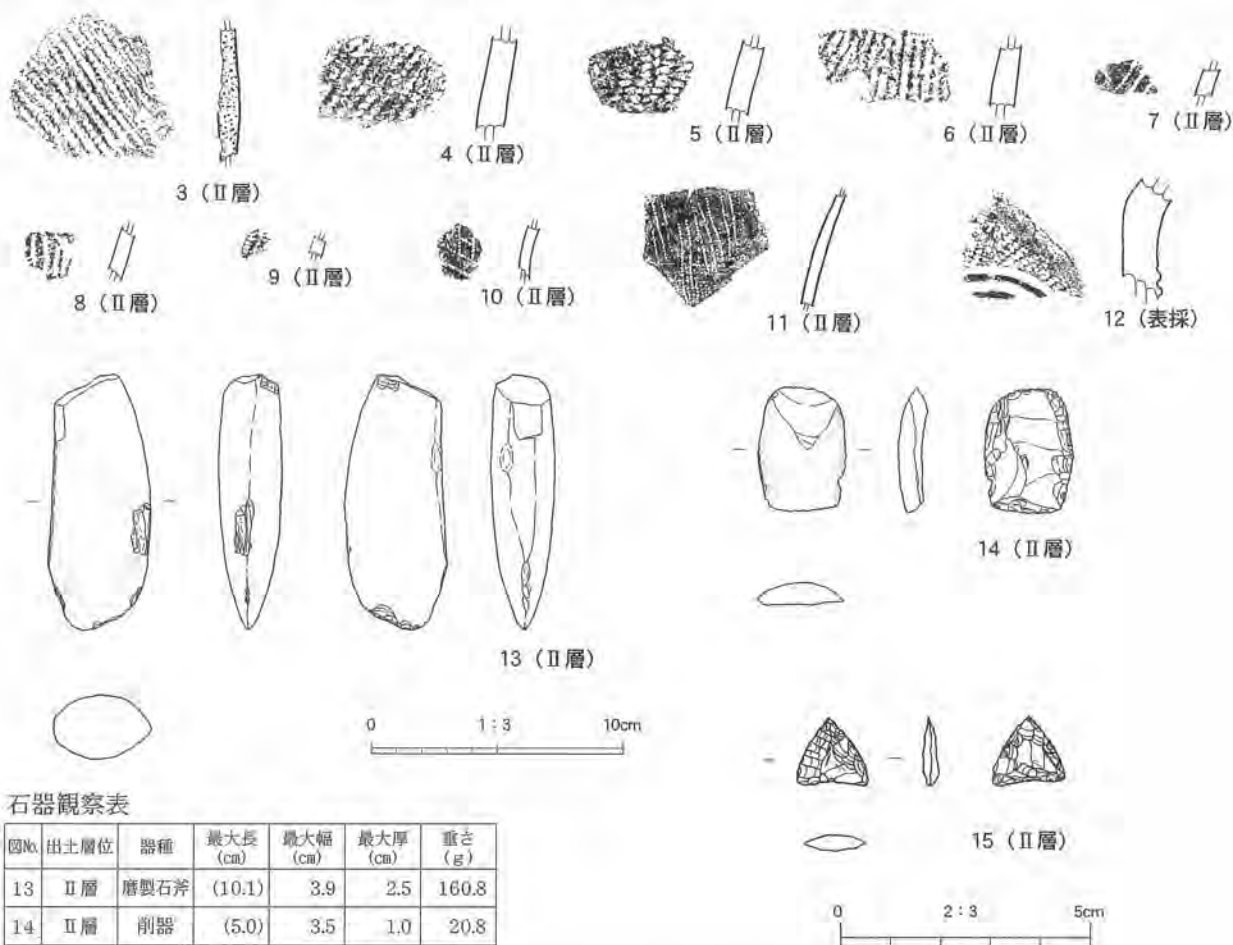
ンチ周辺の平坦部において表採したものである。3はLR単節縄文が斜位に施文されており、胎土に繊維が含まれ、縄文時代前期のものである。4～7はRL単節縄文が斜位に施されている。8は縦位に平行する幅2mmの沈線が3条みられる。9は表面に縄文が施文されているが、摩耗のため撚りの方向などは確認できない。10は網目状撚糸文が施され、器厚は4mmと薄い。12は破片の一部が若干外側に屈曲しているもので、口縁部近くの破片と思われる。隆帯を貼付した後、弧状に幅4mmの沈線が引かれ、地文にはRL単節縄文が施文されている。器厚は1.5cmと比較的厚い。

11は弥生土器でⅡ層から出土している。表面には左撚りの撚糸文が縦位に施され、器厚は3.5mmと薄い。文様の特徵から弥生時代後期に属する土器と考えられる。

13は磨製石斧でⅡ層から出土している。基部は欠損しているが、最大長10.1cm、最大幅3.9cm、最大厚2.5cmを測る。先端部から片方の側縁部にかけて刃状に調整されており、もう片方の側縁部は部分的に平坦な面が形作られている。

14は削器でⅡ層から出土している。最大長5.0cm、最大幅3.5cm、最大厚1.0cmを測る。両側縁に片面からの調整剥離が施され、端部には両面からの調整剥離がみられ刃部を作り出している。背面には自然面がそのまま残っており、切る・削るなどの用途が考えられる。

15は石鏃でⅡ層から出土している。基部の形態は平基であるが、若干の抉入がみられる。最大長1.35cm、最大幅1.35cm、最大厚0.3cmを測り、石材は頁岩である。両面とも丁寧に調整剥離が加えられているが、腹面の一部に一次剥離面が残っている。



第18図 D地点（大程Ⅱ遺跡）遺構外出土遺物



D地点（大程Ⅱ遺跡）
12 調査前状況（西→）



D地点（大程Ⅱ遺跡）
13 トレンチ堆積状況（北→）



D地点（大程Ⅱ遺跡）
14 トレンチ掘り下げ状況（東→）

1号土坑遺物出土狀況 (南→) 15

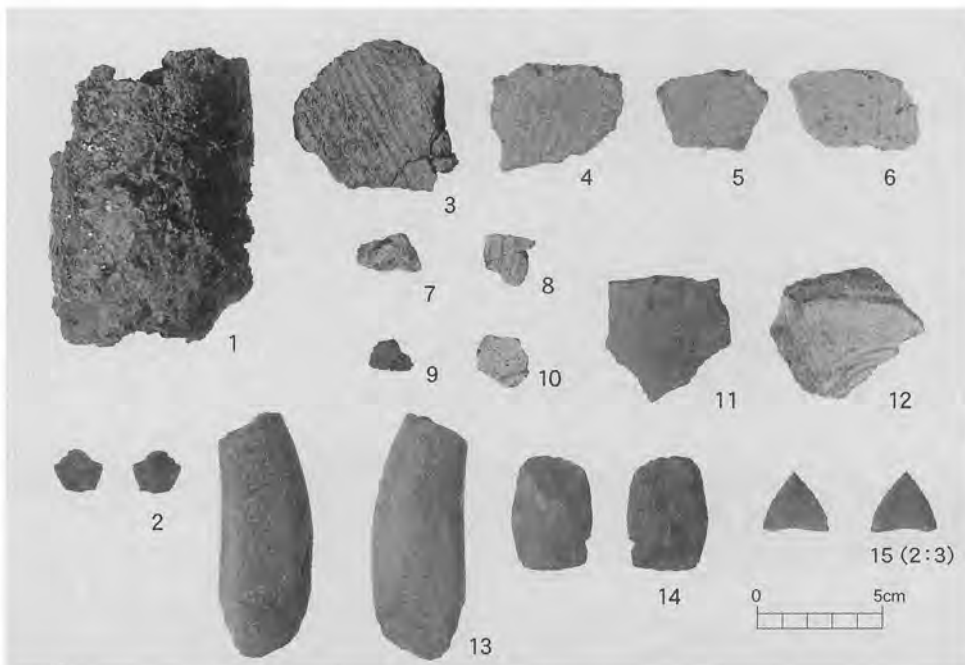


1号土坑完掘狀況 (南→) 16



D地点 (大程II遺跡)
出土遺物

17



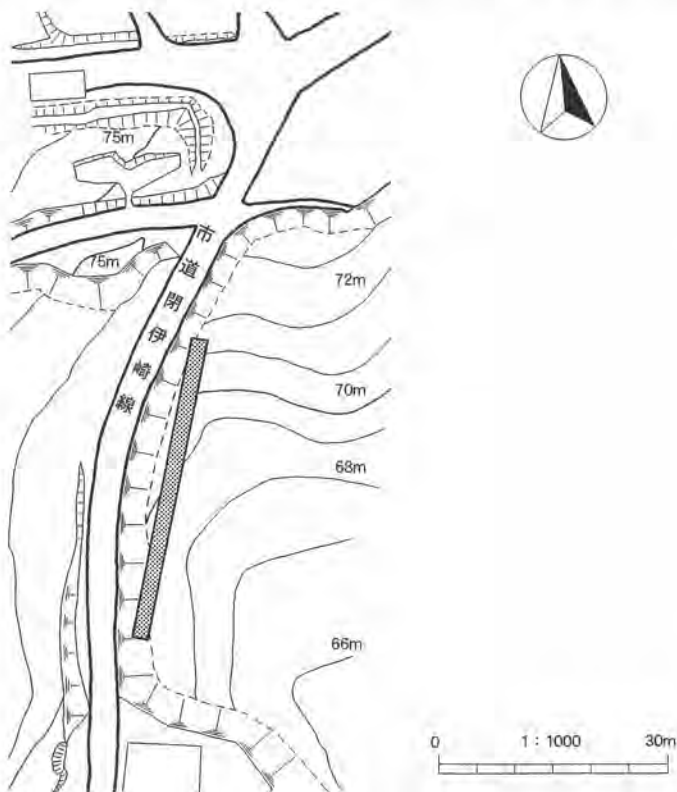
第5節 E地点（平浜遺跡）

(1) 概要（第19～22図 写真18～20・23）

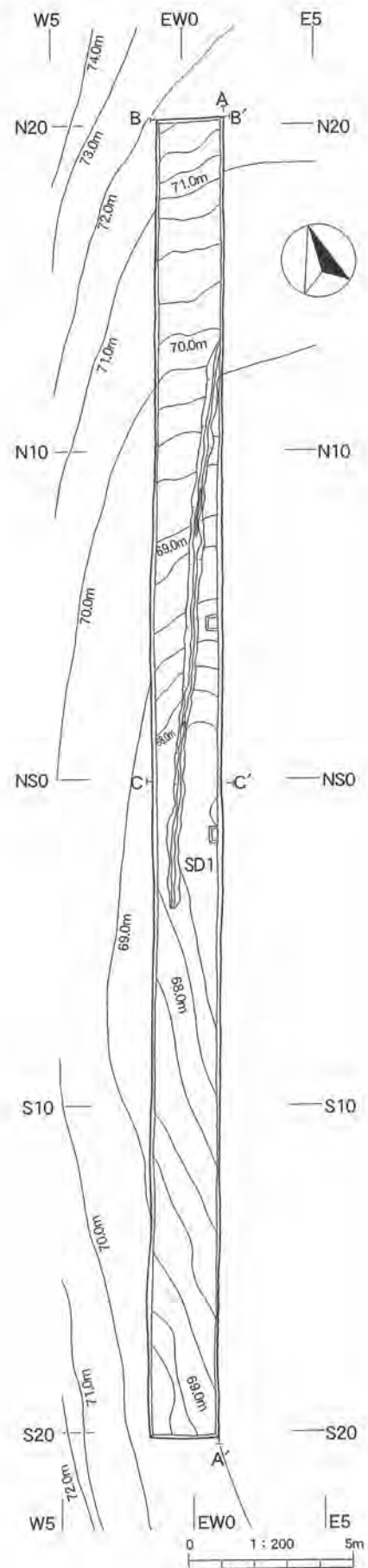
E地点は、東向きの斜面上に位置し、中央部分が最も低いV字形を呈する沢地に似た地形である。標高は北側で約72m、最も窪んでいる中央部分で約69mと比高差は約3mである。西側には現在の道路が通り、道路構築の際の盛土により急峻な斜面となっている。調査範囲は南北に細長いため、南北40m、東西2mのトレンチを設定した。遺構は、溝跡1条・遺物包含層が検出され、縄文土器・石器・磨石・円礫などが出土している。

トレンチ内の堆積土は大きくI～VII層に分けられ、15層に細別された。I層は表土層である。黒褐色を呈する埴壤土を基本土とし、5cm～10cm大の礫が含まれる。

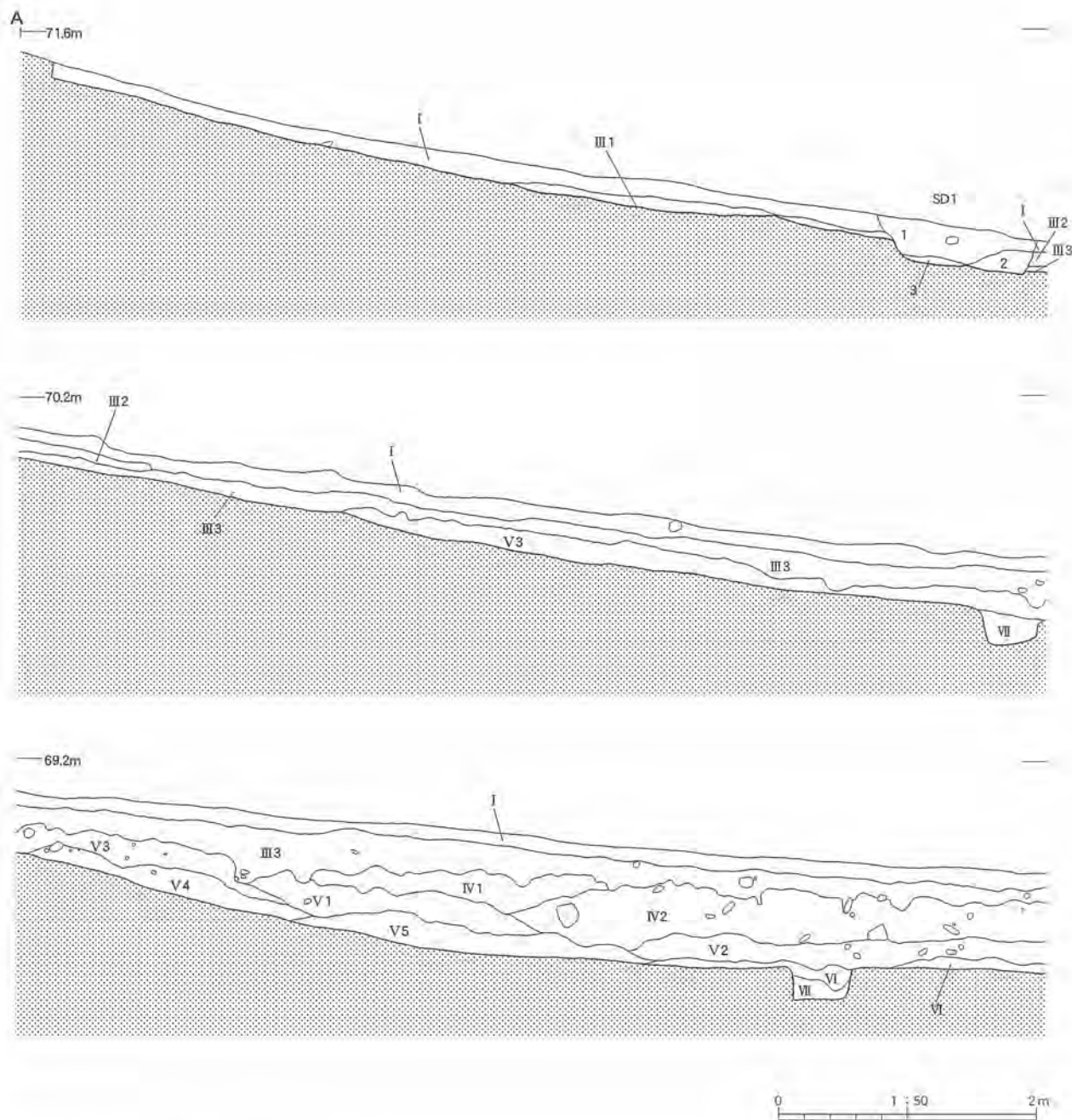
トレンチ内の全範囲に堆積している。II 1・2層はトレンチの北壁周辺と南側にのみ堆積し、層厚は約10cmである。II 1層は黒褐色を呈する埴壤土で、粘性・しまりともにややあり、II 2層は褐色を呈する砂土で、粘性・しまりはない。III 1～3層は縄文時代の遺物包含層である。III 1・2層はトレンチ中央部分よりも北側に堆積してお



第19図 E地点（平浜遺跡）周辺地形図



第20図 E地点（平浜遺跡）トレンチ全体図



E地点（平浜遺跡）土層観察表

層名	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
I	10YR 2/3 黒褐色埴壤土	7.5YR 4/4 褐色砂質埴土3%粒状	軟質、しまりややあり 5cm~10cm大の礫
II 1	7.5YR 2/2 黒褐色埴壤土	10YR 5/3 黄褐色砂土10%粒状	やや硬質、しまりややあり 5cm大の礫
II 2	10YR 4/6 褐色砂土	7.5YR 5/6 明褐色砂土1%粒状	軟質、しまりなし
III 1	7.5YR 3/3 暗褐色埴壤土	5YR 5/8 明赤褐色砂土3%粒状	軟質、しまりなし
III 2	7.5YR 4/4 褐色埴壤土	7.5YR 4/6 褐色砂土10%粒状	軟質、しまりなし
III 3	7.5YR 3/2 黒褐色埴壤土	7.5YR 5/6 橙褐色砂土5%粒状	硬質、しまりややあり
IV 1	10YR 2/3 黒褐色埴壤土	10YR 2/1 黒色埴壤土10%粒状	硬質、しまりあり
IV 2	7.5YR 2/2 黒褐色埴壤土	10YR 2/1 黒色埴壤土10%粒状	硬質、しまりあり

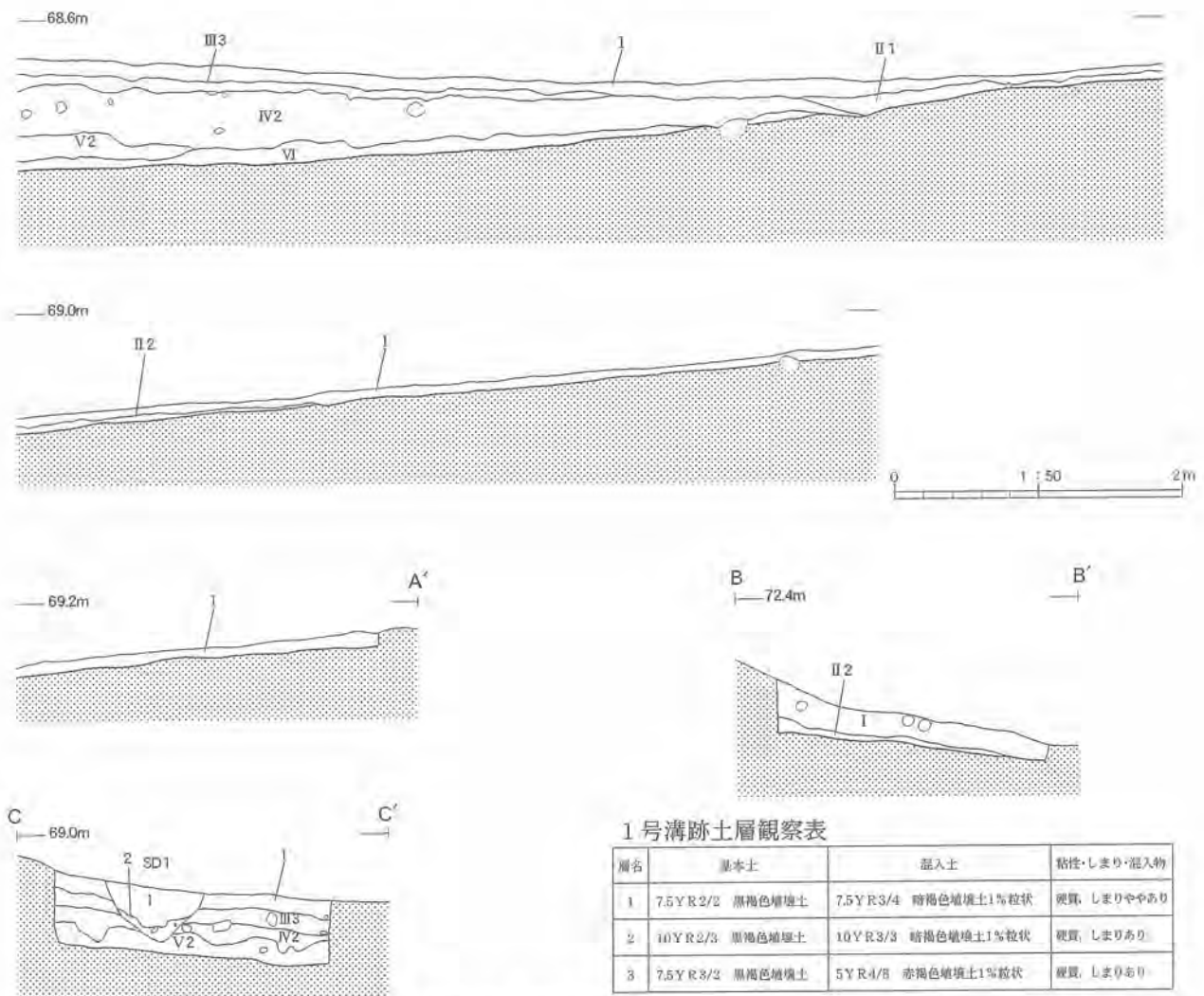
層名	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
V 1	7.5YR 3/2 黒褐色埴壤土	10YR 3/1 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりあり
V 2	10YR 2/2 黒褐色埴壤土	7.5YR 3/2 黒褐色埴壤土1%粒状	硬質、しまりあり
V 3	10YR 2/3 黒褐色埴壤土	7.5YR 2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、しまりややあり
V 4	10YR 3/2 黒褐色埴壤土	10YR 5/6 黄褐色埴壤土5%粒状	硬質、しまりあり 3cm大の礫
V 5	7.5YR 2/2 黒褐色埴壤土	10YR 2/3 黒褐色埴壤土5%粒状	硬質、しまりあり
VI	10YR 3/4 暗褐色埴壤土	10YR 3/2 黒褐色埴壤土30%塊状	硬質、しまりあり
VII	10YR 4/4 褐色埴壤土	-	硬質、しまりあり

第21図 E地点（平浜遺跡）トレンチ断面図（1）

り、それぞれ暗褐色・褐色を呈する埴壤土で、粘性・しまりはない。縄文土器が少数出土している。Ⅲ3層は黒褐色を呈する埴壤土で、粘性があり、しまりはややある。トレンチ中央部分を中心に広範囲に堆積し、縄文土器が多数出土している。層厚は最大で45cmを測り、トレンチの南北両端に向かって次第に薄くなる。人為的な堆積状況はみられず、自然堆積と思われる。Ⅳ1・2層は黒褐色を呈する埴壤土で、トレンチ中央部分にのみ堆積し、縄文土器が少数出土している。Ⅴ1～5層は黒褐色を呈する埴壤土で、遺物の出土はみられない。Ⅵ層は地山漸移層である。暗褐色を呈する埴壤土で、粘性・しまりともにある。トレンチ中央部分より南側に堆積しており、北側にはみられない。Ⅶ層は地山層で褐色を呈する埴壤土である。

(2) 1号溝跡 SD1 (第19～22図 写真21・22)

1号溝跡は、平面形が直線を呈する溝跡で、トレンチ内において東壁の北側から、南側25m付近まで南北方向に検出されている。遺物包含層であるⅢ層を掘り下げたⅣ層及びⅤ層上面で確認されたが、断面の観察により表土と遺物包含層を掘り込んで構築されていることが分かった。溝跡の長さは8.5mを測り、調査区外の北側へさらに延びているものと思われる。溝幅はばらつきがみられるが最大幅約40cmで、深さは最大37cmで北側に向かって次第に深くなっている。



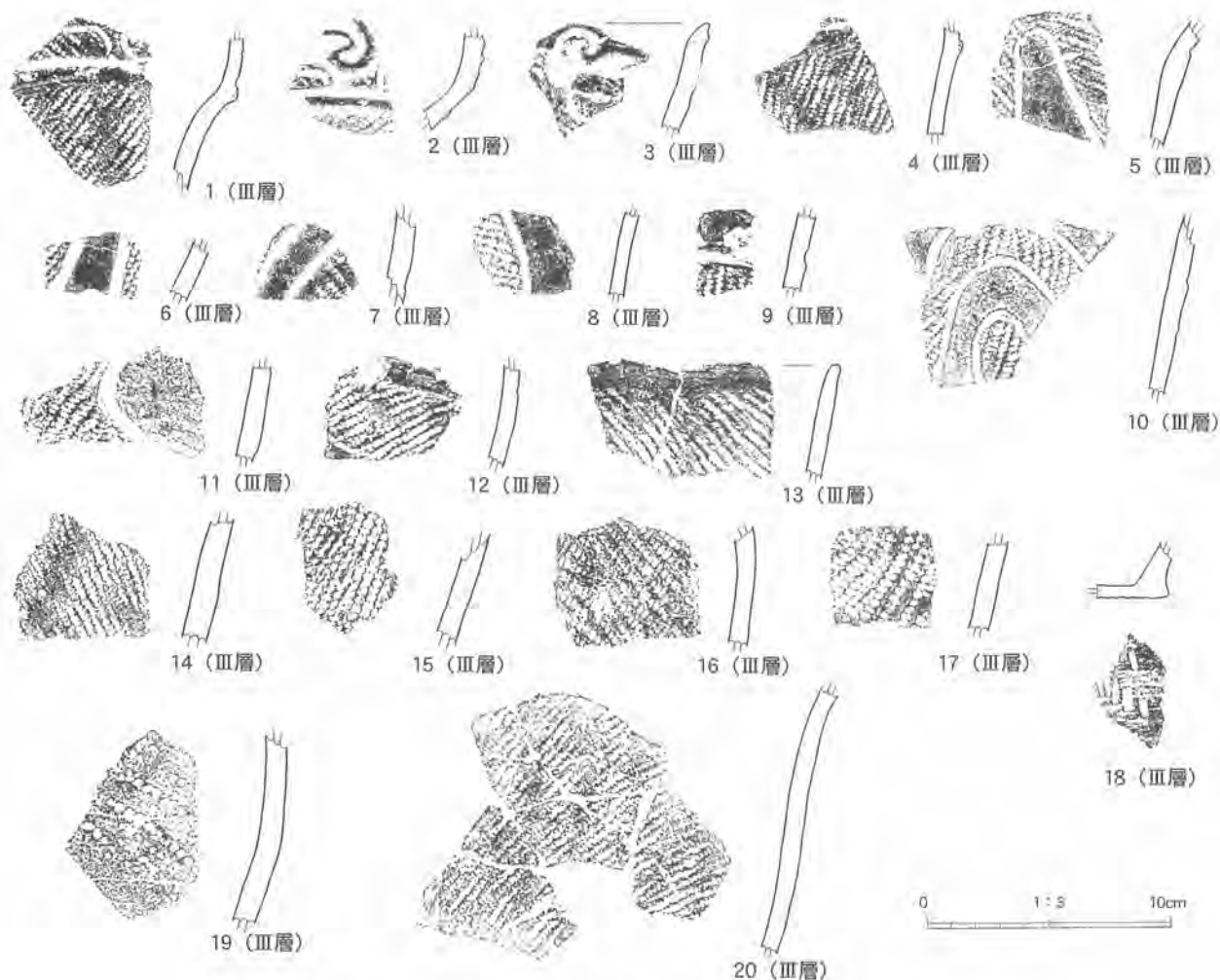
第22図 E地点(平浜遺跡) トレンチ断面図(2)

溝跡の堆積土は3層に分けられる。1～3層は黒褐色を呈する埴壤土で、それぞれ暗褐色（7.5YR 3/4）、暗褐色（10YR 3/3）、赤褐色（5YR 4/8）を呈する埴壤土が混入している。堆積状況から自然堆積と思われ、遺物は出土していない。本溝跡は、表土を掘り込んで構築されていることから現代のものと思われるが、性格など詳細は不明である。

(3) 出土遺物 (第23・24図 写真24・25)

遺物は、遺物包含層 (Ⅲ層) とⅠ・Ⅳ層から出土している。遺物包含層から出土した遺物は全て縄文土器で、破片数は合計344点である。ほとんどが地文に縄文が施されるもので時期を特定することはできないが、少数ながら縄文時代中期後半の大木8b式～10式土器が出土している。

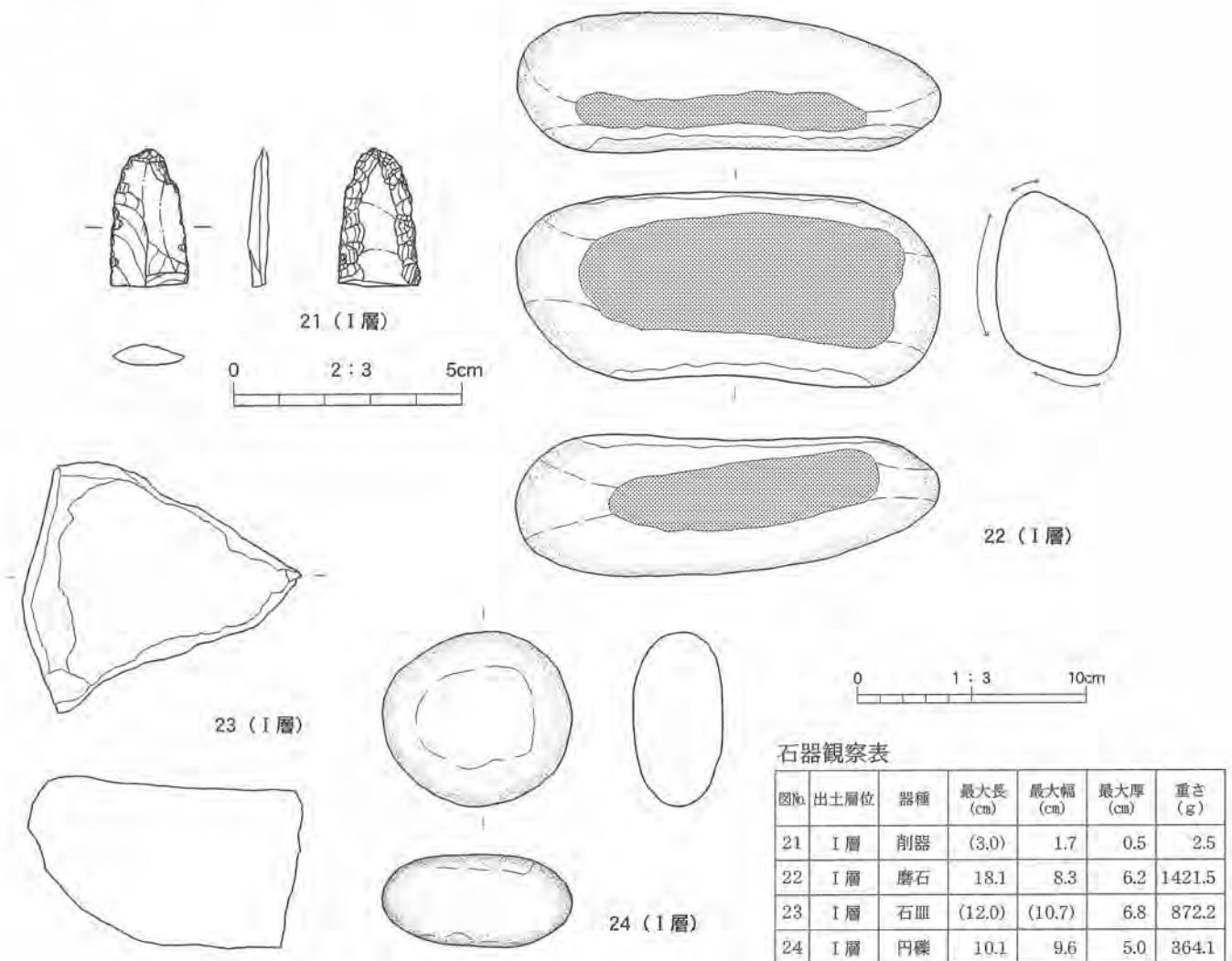
1はキャリパー形を呈する口縁部から胴部にかけての破片で、横位の沈線と隆帯により口縁部文様帯と胴部が区画されている。沈線によって楕円形に区画された中にRL単節縄文がみられ、地文にはRL単節斜縄文が施文されている。2はキャリパー形を呈する口縁部の破片で、隆帯渦巻文と沈線による文様が施されている。横位の隆帯により口縁部が区画され、地文にはRL単節斜縄文が施文されている。3は口縁部の破片で、隆帯渦巻文と横位の隆帯がみられる。横位の隆帯は剥落している。2・3は大木8b式である。4はキャリパー形を呈する口縁部の破片であるが、口縁部は横位の沈線のみが残存し、地文はRL単節斜縄文が施文されている。5はLR単節縄文の地文に、沈線で区画さ



第23図 E地点 (平浜遺跡) 出土遺物 (1)

れた逆V字形の無文帯をもつ。破片の上部が屈曲しており、口縁部近くのものと思われる。6～9は磨消縄文が縦位または横位にみられ、6は複節縄文、8はLR単節斜縄文、9はRL単節縄文が施文されている。大木9式もしくは10式と思われる。10は∩字形を呈する磨消縄文でRL単節縄文が施文されている。大木10式である。11はRL単節斜縄文の地文に磨消縄文がみられる。12は横位の磨消縄文がみられ、LR単節斜縄文が施文されている。胎土に5mm大の砂粒が含まれる。13は平縁の口縁部破片である。地文はLR単節斜縄文で、口唇部はナデ調整により磨り消されている。14～16は地文にRL単節斜縄文が施文され、15は器厚9mmと比較的厚い。17は地文に複節縄文が施されている。18は底部の破片で、器厚は5mmと薄く、底面には網代痕がみられる。欠損部分が多く底径は不明である。19は地文にLR単節斜縄文がみられ、節が3mm～5mmと大きい。内面には円形状の剥離がみられる。20は地文にRL単節斜縄文が施文されているが、表面は摩耗しており不明瞭である。

21～24はI層から出土している。21は削器で、腹面の先端部と縁辺部及び背面の先端部に丁寧な調整剥離がみられ、腹面の一部に一次剥離面が残る。石材は頁岩である。22は磨石である。楕円形を呈し、磨面が3面観察される。23は石皿で、部分的ではあるが平滑な使用面が残る。24は円礫で、長径10.1cm、幅9.6cm、厚さ5.0cmを測る。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は楕円形で平坦な面をもつが、磨面はみられない。同様の形態をもつ円礫がI層より多数出土している。



第24図 E地点(平浜遺跡)出土遺物(2)

E地点(平浜遺跡)
調査前状況(北→)

18



E地点(平浜遺跡)
包含層検出状況(北→)

19



E地点(平浜遺跡)
トレンチ堆積状況(西→)

20





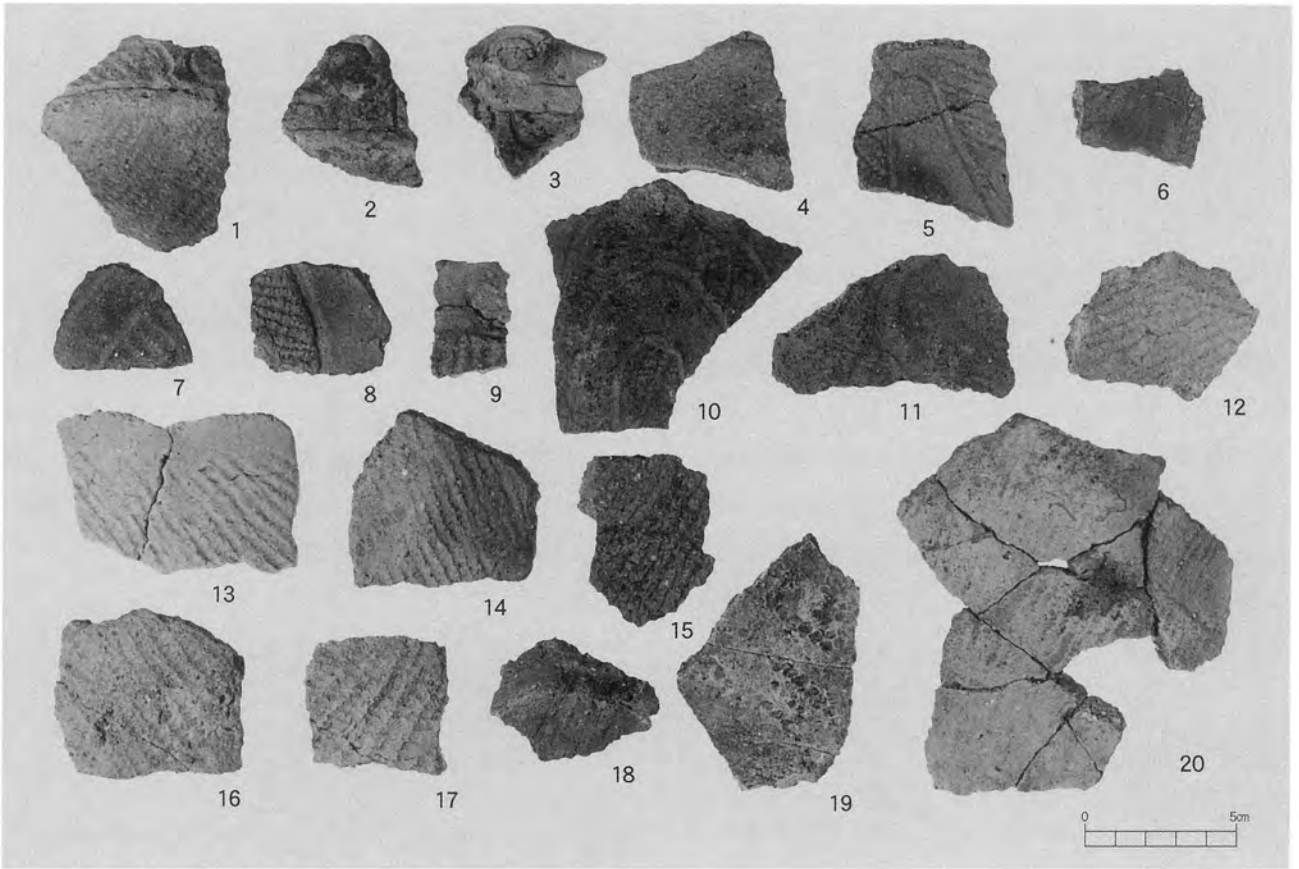
E地点（平浜遺跡）
21 1号溝跡検出状況（北→）



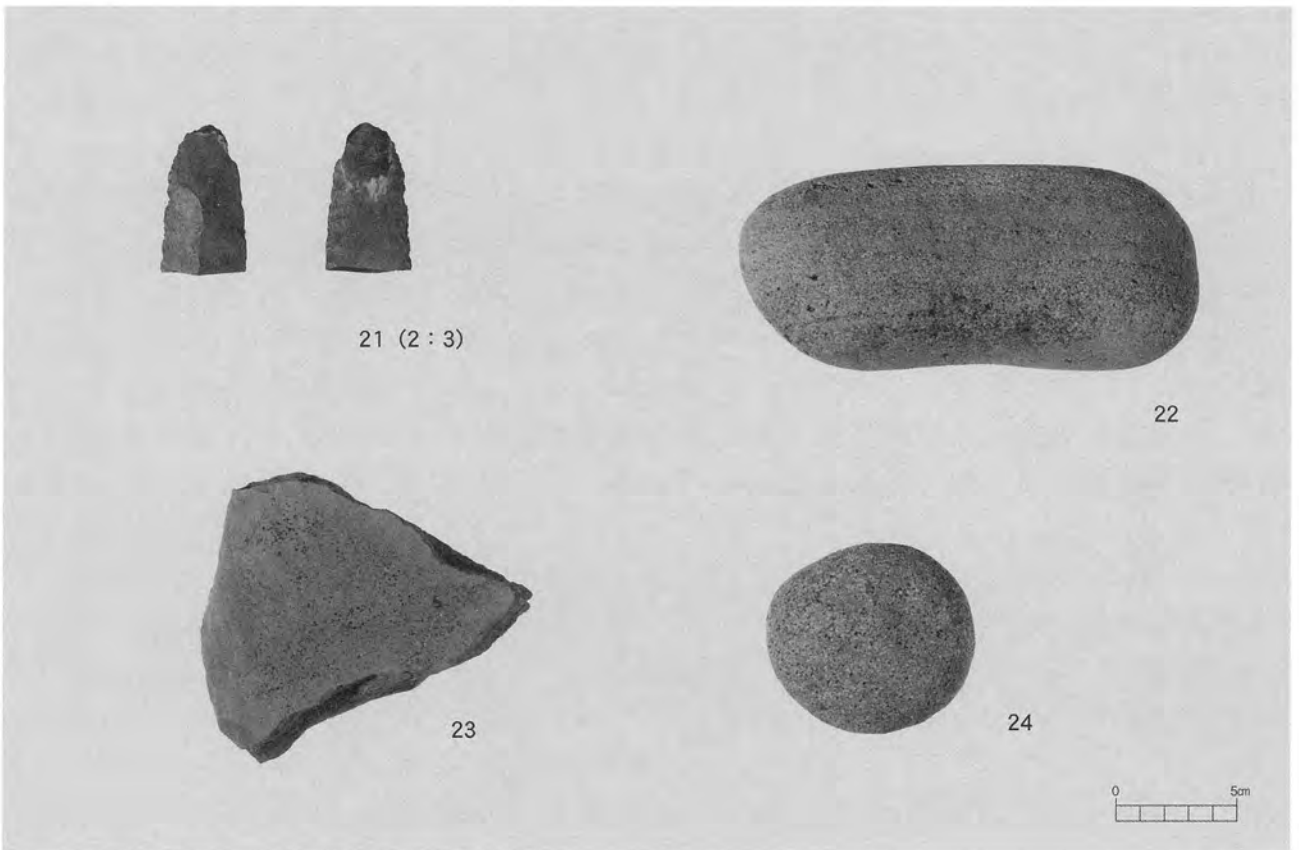
E地点（平浜遺跡）
22 1号溝跡セクション（南→）



E地点（平浜遺跡）
23 トレンチ掘り下げ状況（北→）



24 E地点(平浜遺跡) 出土遺物 (1)



25 E地点(平浜遺跡) 出土遺物 (2)

第3章 まとめ

市道閉伊崎線道路改良工事に伴うA～E地点の調査の結果、土坑1基・溝跡1条・縄文時代の遺物包含層・盛土層が検出され、縄文土器・弥生土器・鉄滓・石鏃・磨製石斧・磨石などが出土した。この中で盛土層と溝跡は、堆積土や遺物の出土状況から現代において構築されたものと判断され、盛土層については平坦面を造る目的で緩斜面上に堆積されたものと想定された。溝跡については遺物が出土していないためその性格を伺い知ることはできなかった。土坑はD地点（大程Ⅱ遺跡）から検出され、鉄滓が多量に出土しているが、他の遺物は羽口片と剥片のみであり所属時期は不明である。遺物包含層はE地点（平浜遺跡）から検出され、縄文時代中期後半の土器が出土している。A・B地点からは遺構や遺物は確認されず、C地点においては遺物が少数出土しているが遺構に伴うものではなく周辺の遺跡からの紛れ込みの可能性が高いと考えられる。C地点から西へ350mの緩斜面上に追切遺跡が分布しているが、C地点の北側尾根上など周辺にも未周知の遺跡の存在が推測される。

次に、今回の調査において特徴的な遺構である鉄滓が多量に出土した土坑と縄文時代の遺物包含層についてみていきたい。

土坑（D地点 大程Ⅱ遺跡）

土坑（SK1）はD地点（大程Ⅱ遺跡）において検出され、堆積土中に鉄滓が多量に出土しているのが特徴である。出土した鉄滓（4,85kg）の中で、流動滓が約6割を占め、残りは塊状の鉄滓である。土坑周辺から鉄滓は4点（158.2g）しか出土せず、また焼土層や炉底塊、鍛造剥片など製鉄炉跡や鍛冶炉跡とする要素がみられないため、土坑内に鉄滓を意図的に埋めたものと思われる。この埋めたという行為が廃棄であるかは推測するしかないが、鉄滓は鉄生産の際に出てくる不純物であるという遺物の性質上、本報告では廃棄という表現を用いたい。この他に鉄関連の遺物として羽口片が1点出土し、鉄滓とともに土坑内に廃棄されたと思われる。

鉄滓・羽口という鉄関連の遺物は、閉伊崎地区においては初めての出土であり、重茂半島全域でも現在のところ赤前Ⅳ八枚田遺跡（平成7年調査）、赤前Ⅲ遺跡（平成9年調査）、小堀内Ⅲ遺跡（平成5～6年調査）の3遺跡においてのみ確認されている。赤前Ⅳ八枚田遺跡では、鍛冶炉3基（A-6製鉄遺構・A-1鍛冶炉・A-4鍛冶炉）と大型の鍛冶炉1基（B-11製鉄遺構）が検出され、赤前Ⅲ遺跡では、鍛冶炉1基（B-2鍛冶炉）、大型の鍛冶炉1基（B-3製鉄遺構）が検出されている。B-3製鉄遺構の構造は製鉄炉に類似しているが、鉄塊系遺物の出土割合が高いことから大型の鍛冶炉と推定されている。小堀内Ⅲ遺跡では、鍛冶炉3基（E-1製鉄遺構・D-1鍛冶炉・D-2鍛冶炉）が検出されている。3遺跡とも奈良・平安時代に属し、竪穴住居跡内に構築された鍛冶炉が確認されていることから、古代において、集落として鉄生産に関わっていたと考えられている。

鉄関連の遺跡が多い八木沢地区や津軽石地区の様相と比較すると、重茂半島の鉄関連遺跡は極端に少なく赤前地区にのみ集中して分布している状況が伺える。さらに重茂半島の南西側にあたる山田町長内地区においても同様に鉄関連の遺跡が多数分布している。そのため、鉄関連遺跡の分布状況は、原料となる良質の砂鉄がとれる花崗岩体が半島の西側に分布していることと関係があるとされている。しかし、今回の調査で廃棄されたものとはいえ鉄滓と羽口という鉄生産遺構に欠かせない遺物が閉伊崎地区において出土したことは、D地点（大程Ⅱ遺跡）の周辺に製鉄炉跡や鍛冶炉跡などの遺構の存

在が想定され、一様に砂鉄の有無のみが要因とはいえないのではないかとと思われる。それでも表採や分布調査において、今まで鉄滓や羽口など鉄生産に関する遺物が確認されなかったことからすると、赤前地区に比べ操業の時期が短いことや遺構の密度が薄いことなどが考えられ、小規模な鉄生産が行われたと推測される。そしてこれらの鉄生産がいつ行われていたか、またいつ鉄滓が廃棄されたかが問題となるが、時期を特定できる遺物が出土していないため不明と言わざるを得ない。

遺物包含層（E地点 平浜遺跡）

縄文時代の遺物包含層はE地点（平浜遺跡）において検出され、V字形を呈する沢地形に堆積している。出土した縄文土器は、地文に縄文が施されたものが大部分を占めるが、その中で大木8b式～10式の土器も含まれていることから、縄文時代中期後半以降に堆積したものと思われる。さらに縄文土器はⅢ層中に混在して出土しているため、土器捨て場や貝塚などにみられる層位的な堆積ではなく、沢の作用によって上流から流されたものが堆積したと推測される。今回、出土した縄文土器の年代に属する遺構は確認できなかったが、トレンチの北側は尾根上となっており比較的平坦な面が広がっている。そのため、その周辺に竪穴住居跡などの遺構がある可能性が考えられる。

今回調査が実施された閉伊崎地区は、平成4～6年にも市道浦の沢線道路改良工事に伴い調査が実施されており、縄文時代のフラスコ状土坑や中世から近世初頭にかけての墓壇などが確認されている。この他、閉伊崎地区の南に位置する鶴磯遺跡からはヒスイの玉と勾玉が表採されており、交易などによる人と物の動きが推測されている。しかし、小規模な範囲の調査や表採資料であるため、今回のA～E地点の調査成果を加味してもまだ詳細の分からない時代が多い。今後、資料の増加によりさらに閉伊崎地区の歴史が明らかになることを期待したい。

<引用・参考文献>

- | | | |
|-----------------|------|--|
| 田村忠博 | 1986 | 『古城物語』 |
| 宮古市教育委員会 | 1992 | 『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』 宮埋文報31 |
| 宮古市教育委員会 | 1995 | 『笹沢Ⅰ遺跡・加村遺跡・仲組Ⅲ遺跡・堺ノ神遺跡－市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 宮埋文報45 |
| 宮古市教育委員会 | 1999 | 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 宮埋文報53 |
| 宮古市教育委員会 | 2000 | 第11回ふるさとの歴史展 『企画展 ヒスイに魅せられた人々』 図録 |
| (財)岩手県埋蔵文化財センター | 2001 | 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第368集 島田Ⅱ遺跡』 |
| 山田町教育委員会 | 2002 | 『細浦Ⅳ・後山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 山田町埋文報9 |

報告書抄録

ふりがな	おおほど 2 いせき ひらはまいせき							
書名	大程Ⅱ遺跡 平浜遺跡							
副書名	市道閉伊崎線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	63							
編著者名	長谷川 真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号 TEL.0193-62-2111 FAX.0193-63-9119							
発行年月日	2004年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおほど 2 大程Ⅱ	岩手県宮古市 大字重茂 第29地割字 戸ノ崎	03202	LG35-0201	39° 38' 28"	142° 1' 23"	20020405 ~20020513	110㎡	市道閉伊崎線 道路改良工事 に伴う事前調査
ひら 浜	岩手県宮古市 大字重茂 第29地割字 戸ノ崎	03202	LG25-2159	39° 38' 46"	142° 1' 21"	20020513 ~20020604	80㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大程Ⅱ	散布地	縄文時代	土坑1基 盛土層	縄文土器・石鏃・削器・磨製石斧・鉄滓・羽口				
平 浜	散布地	縄文時代中期	溝跡 遺物包含層	縄文時代中期土器・削器・磨石・石皿				

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1 1979 「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」	35 1992 「大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書」
2 1980 「宮古市千徳遺跡発掘調査概報」	36 1992 「細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書」
3 1983 「宮古市遺跡分布調査報告書1」	37 1992 「崎山遺跡群Ⅵ-平成3年度発掘調査概報」
4 1984 「宮古市遺跡分布調査報告書2」	38 1993 「萩沢Ⅱ遺跡-平成4年度発掘調査報告書」
5 1984 「赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書」	39 1993 「早稲栃Ⅱ遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書」
6 1985 「宮古市遺跡分布調査報告書3」	40 1993 「崎山遺跡群Ⅶ-平成4年度発掘調査概報」
7 1985 「金浜館跡発掘調査報告書」	41 1994 「崎山遺跡群Ⅷ-平成5年度発掘調査概報」
8 1986 「宮古市遺跡分布調査報告書4」	42 1995 「赤前Ⅰ牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書」
9 1986 「宮古市遺跡分布図-昭和60年度版」	43 1995 「磯鷗館山遺跡発掘調査報告書」
10 1986 「中谷地・島田遺跡調査報告書」	44 1995 「崎山貝塚-範囲確認調査報告書」
11 1987 「崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書」	45 1995 「笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
12 1987 「寒風・早稲栃Ⅳ遺跡調査報告書」	46 1995 「花原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書」
13 1987 「崎山遺跡群Ⅰ-昭和61年度発掘調査概報」	47 1995 「宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲栃Ⅱ遺跡・崎山貝塚」
14 1988 「青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)-昭和62年度発掘調査報告書」	48 1996 「大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書」
15 1988 「崎山遺跡群Ⅱ-昭和62年度発掘調査概報」	49 1997 「花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書」
16 1989 「千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書」	50 1997 「白石遺跡-第6次発掘調査報告書」
17 1989 「トロノ木Ⅰ遺跡-第1～7次発掘調査報告書」	51 1998 「赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書」
18 1989 「崎山遺跡群Ⅲ-昭和63年度発掘調査概報」	52 1998 「藤知遺跡-平成9年度発掘調査報告書」
19 1989 「高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書」	53 1999 「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ノ沢・小堀内Ⅲ遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
20 1989 「狐崎Ⅱ遺跡-昭和63年度発掘調査報告書」	54 1999 「千鶴Ⅳ遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
21 1989 「崎山トロノ木Ⅳ遺跡-昭和63年度調査報告書」	55 1999 「崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報」
22 1990 「狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書」	56 2000 「木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡-特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
23 1990 「崎山遺跡群Ⅳ-平成元年度発掘調査概報」	57 2002 「山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書」
24 1990 「磯鷗館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書」	58 2002 「小沢Ⅱ大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2」
25 1990 「鎌ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書」	59 2003 「大又沢Ⅱ遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書」
26 1991 「崎山遺跡群Ⅴ-平成2年度発掘調査概報」	60 2003 「上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3」
27 1991 「青猿Ⅰ・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書」	61 2003 「早稲栃Ⅱ遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4」
28 1990 「熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書」	62 2003 「下在家Ⅰ遺跡-平成14年度発掘調査報告書」
29 1991 「弘川Ⅰ遺跡-平成2年度発掘調査報告書」	63 2004 「大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡-市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書」
30 1992 「金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書」	
31 1992 「重茂館遺跡群-第1次調査報告書」	
32 1992 「黒森町Ⅰ遺跡-平成2年度発掘調査報告書」	
33 1992 「高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書」	
34 1992 「鯉沢遺跡群-平成2年度発掘調査報告書」	

宮古市埋蔵文化財調査報告書63

おおほど² ひらはま 大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡

—市道閉伊崎線道路改良工事関係発掘調査報告書—

平成16年3月26日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会

〒027-8501 宮古市新川町2番1号

TEL. 0193-62-2111

印刷 花坂印刷工業株式会社

〒027-8501 宮古市新川町1番2号

TEL. 0193-62-3125

